

2013 年度後期
「教員による授業アンケート」

～調査結果報告～

平成 26 年 3 月

奈良佐保短期大学 自己点検評価室

目 次

基礎教養科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
1	英会話	キャンベル早川久美子	演習	1
2	英語Ⅱ	椎野 美知子	演習	2
3	基礎ゼミナールⅡ	向井 光太郎	演習	3
4	健康・スポーツ論	村田 トオル	講義	4
5	国際理解	小尾 二郎	講義	5
6	人権と差別	馬越 かよ子	講義	6
7	心理学	池田 曜子	講義	7
8	フランス語Ⅱ	浅野 友子	演習	8
9	文学	宮川 久美	講義	9

生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
10	グリーンプランニングⅡ	寺田 孝重	講義	10
11	こころとからだのしくみⅠ	池田 曜子	講義	11
12	こころとからだのしくみⅢ	森田 婦美子	講義	12
13	コミュニケーションの基本	森永 夕美	講義	13
14	生活支援技術Ⅱ	富岡 郁子	演習	14
15	セラピー概論	竹花 正剛	講義	15
16	低所得者に対する支援と生活保護制度	尾崎 剛志	講義	16
17	認知症の理解Ⅰ	笹谷 真由美	講義	17

生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
18	栄養指導論実習Ⅰ	須谷 和子	実習	18
19	運動生理学	松本 範子	講義	19
20	食品材料学(加工学を含む)	池内 ますみ	講義	20
21	人体の構造と機能Ⅱ	毛受 真由美	講義	21
22	専門調理	箕山 なおみ	実習	22
23	調理実習Ⅱ	島村 知歩	実習	23

生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
24	イラスト・画像処理	井上 彩	演習	24
25	カラーコーディネート演習	中村 妙子	演習	25
26	経営学総論	向井 光太郎	講義	26
27	経理実務Ⅱ	谷村 真理	講義	27
28	ゼミナールⅡ	東出 加奈子	演習	28
29	卒業研究	向井 光太郎	演習	29
30	プロダクトデザインⅡ	上野 信子	演習	30

地域こども学科 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
31	音楽基礎演習Ⅱ	澤田 博	演習	31
32	音楽Ⅱ	大城 弓恵	演習	32
33	音楽Ⅱ	大西 有紀	演習	33
34	音楽Ⅱ	玉井 奈摘	演習	34
35	音楽Ⅱ	中島 倍代	演習	35
36	音楽Ⅱ	宮田 真理	演習	36
37	音楽Ⅱ	山下 玲子	演習	37
38	音楽Ⅳ	奥田 尚子	演習	38
39	音楽Ⅳ	和田 宏一	演習	39
40	家庭支援論	中田 奈月	講義	40
41	障害者福祉	李 仙恵	講義	41
42	小児保健 B	早川 淳	講義	42
43	保育(言葉)	片岡 三和	演習	43
44	保育実習指導Ⅱ	石田 裕子	演習	44
45	保育心理学演習	鈴木 千晴	演習	45
46	保育相談支援	石田 伸子	演習	46
47	保育(表現・幼児造形Ⅰ)	福井 靖子	演習	47

専攻科 福祉専攻 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
48	介護概論Ⅱ	安永 龍子	講義	48
49	居住環境整備の技法	北口 照美	演習	49
50	障害の理解	山田 和歌子	講義	50
51	発達と老化の理解	吉田 裕司	講義	51

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : キャンベル早川久美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 英会話 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8325b **授業形態** : 演習 **受講者数** : 23名 **回答者数** : 17名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	15	2	-	-	-	-	-	17	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.82	[Bar chart showing student average at 3.82]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.65	[Bar chart showing student average at 3.65]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.00	[Bar chart showing student average at 4.00]				
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 5.9%	やや 多い 23.5%	適切 70.6%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.00	[Bar chart showing student average at 4.00]				
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.94	[Bar chart showing student average at 3.94]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.06	[Bar chart showing student average at 4.06]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 23.5%	やや 高かった 41.2%	適切 であった 35.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	3.76	[Bar chart showing student average at 3.76]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	3.94	[Bar chart showing student average at 3.94]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.94	[Bar chart showing student average at 3.94]				

1 授業の概要、特徴等

基礎会話表現から自己表現活動につながるように、幅広い実践的英語運用能力を培うことを目標に、また、異文化間コミュニケーション、国際人基礎力としての国際感覚を磨くことも共に目標とした。メインテキストでは、さまざまな会話場面で用いられる定型表現を中心に扱い、また、丁寧さのレベルの確認を通して、丁寧な表現・くだけた表現と、適切に使い分けられるように配慮している。さらに、副教材を用いて、英語の瞬間英作文を毎時積み重ねた。自分で言えることを毎回増やし、そして伝える楽しさ、分かる楽しさとして、実感できるように図っている。

2 アンケート評価結果に対する見解

今回受講した学生は、かなり発音やイントネーションといった音声言語表現に優れたものがいた。常にはあるが、授業に実際に興味をもって選択したもの、単位の必要から選択しているもの、との学習意欲における差があり、元々の基礎的英語力における差異、それらの複合としてあらわれる学習態度の改善は大きな鍵であろう。何のために学習するのかという目標をより明確に自覚させるようにすることで、積極的かつ能動的学習が生まれると考える。さらには予習、復習のパターンを定着させることで、できる感を補強していきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

実践的な英語運用能力は、基礎表現場面においては基礎力を培うことができた。また、適切な場面における異文化理解の要素は、常に言及し、理解が深められるように努めたことの成果は期待できる。評価基準ならびに単位の認定はオーラルテストと、理解力の判断材料として、ペーパーテストを課した。なお、積極的なコミュニケーションを図ることを意図して、平常点50%で評価している。

4 授業改善の方法

英語への関心は持っているのだが、英語の会話能力を上げることの即効薬はない。常に或る程度の時間と精力がいる。したがって、そういった地味な継続的努力が学生自身に必要とされる。目に見える自分で満足のいく成果を手に入れるチャンスは、まさに自身の費やしたエネルギーに依存する。どれだけのエネルギーを注ぐことができるかは、それぞれが持つ問題意識や、社会的要請による期待といった諸環境から受ける影響も大きい。多面的攻略と考えれば、イベント企画といった形での協同学習形態を取り入れてみるのも一考かと考える。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 椎野 美知子 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : 英語Ⅱ 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8310a 授業形態 : 演習 受講者数 : 26名 回答者数 : 22名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	21	1	-	-	2	1	1	17	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.36						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.45						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.18						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 4.5%	やや 多い 18.2%	適切 77.3%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.36						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.18						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.41						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 9.1%	やや 高かった 22.7%	適切 であった 68.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.09						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.09						

1 授業の概要、特徴等

授業の概要 1. 日本事象を説明するのに役立つ語彙を学ぶ。 2. 外国人の日本文化への質問を書いた英文を読解する。
 3. その内容について各自の意見を発表する。 4. 本文を音読する。 日本人として日本文化を理解し、外国に対して発信できるだけの知識と音声を身に付ける事を目標とする。 そのために、音声表現訓練を授業の中に取り入れていることを特徴とする。

2 アンケート評価結果に対する見解

全体的によく授業に向き合ってくれたので、アンケート結果の通りかなと思う。 発声練習や発表にもまじめに取り組んでくれたのでうれしかった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の大きな目標に、まず自分の意見を持つ、次にそれを他に向かって音声で発信するというのがある。そのため、授業中に発表という形で自分の意見を言ってもらったことが多かった。 よって、成績評価は、筆記テスト50%、発表と授業態度50%とした。

4 授業改善の方法

少し教材の英文が長かったので取り組むのが大変な学生がいた。次年度は、もっと短い英文を使ってバラエティに富んだ学習をしようと思う。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 向井 光太郎 **職名** : 准教授 **所属** : 全学
科目名称 : 基礎ゼミナールII **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8005abcd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 70名 **回答者数** : 55名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	54	-	-	1	14	37	3	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.22						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.22						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.98						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 10.9%	やや 多い 20.0%	適切 69.1%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.15						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.13						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.18						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	非常に 高かった	非常に 高かった 10.9%	やや 高かった 25.5%	適切 であった 61.8%	やや 低かった 1.8%	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.09						
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.15						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.17						

1 授業の概要、特徴等

本科目では、ビジネスにおけるコミュニケーション能力を高めるための機会として、ビジネス実務のロールプレイを積極的に盛り込み、ビジネス能力検定「ジョブパス」問題を取り上げた。これは、ゼミナールIIにおける実務家講師の特別指導機会と連動させ、そこでのマナーや接遇ロールプレイングでそのスキルアップを、再確認させることも目指した。産業界が求めるコミュニケーション能力を、ジョブパス例題に取り組むことで高めさせ、ビジネスにおけるファーストコンタクト時の立ち居振る舞いから練習することで、学期末の集中講義「ビジネス実践演習」「インターンシップ」で実践し、2回生時から本格的に始まる就職活動にも活かせる様にした。

2 アンケート評価結果に対する見解

本科目では、実際のビジネスシーンで個人がどのように仕事を進めることになるのか、ジョブパス(ビジネス能力検定)例題から学ぶ機会を取り入れた。その解説に時間をかけて分かりやすく説明することを心がけたので、講師の熱意や学生の成長への期待を伝えることができた。ただし、文章の作成能力、パソコンを活用した情報処理能力、プレゼンテーション能力など幅広い基本スキルの向上まで体系的に獲得するまでの時間が不足していた部分は課題である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本学の教育理念「一、自律する人 二、自己と他者を尊重する人 三、事象に自ら関わる人」を、教養面(専門知識、専門技術)、人間性(マナー、就学意識)、思考力(課題発見力、課題解決力)、行動力(チームワーク、情報発信力)の点から評価した。そこで、講義への出席回数、チームワーク、講義態度、観点、情報量、プレゼンテーションに分けて客観評価を行い採点し、単位認定に結びつけた。ビジネスの現場で必要になる「独創性」の有無を特に評価した。

4 授業改善の方法

基礎的なスキル向上を目指す指導機会では、より多くの各自実践機会を作る必要がある。また、プレッシャーやストレスをある程度かける必要がある。実践的なスキル向上を目指すためにはより現実に近い教育の場が必要だ。学内オフィスやレストランなどにも協力してもらいながら、現場実践機会を取り入れて現実味を増す工夫も必要だ。また、今後は基礎スキルを専門に指導できるような担当教員や手法の開発も改善課題である。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 村田 トオル **職名** : 准教授 **所属** : 全学
科目名称 : 健康・スポーツ論 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8250ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 79名 **回答者数** : 69名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	9	60	-	-	-	9	-	59	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.78						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.00						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	3.52						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 1.4%	やや 多い 11.6%	適切 85.5%	やや 少ない 1.4%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.03						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.93						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.23						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 2.9%	やや 高かった 14.5%	適切 であった 78.3%	やや 低かった 4.3%	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.90						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.99						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.00						

1 授業の概要、特徴等

個人の生活習慣に深くかかわるメタボリックシンドロームという言葉が一般化しているが、では実際にどのような生活習慣を送れば健康づくりにつながるのかという意識をインターネットで話題になったできごとや、CMを通じて学生に気付かせ、時には教員の経験談か講義している。また教科書・テキストは用いず、ポイントをまとめたプリントを毎回配布し、重要なポイントは書き込ませるようにしている。また、実習を迎えるにあたっての体調管理の方法を具体的に提示し、実践へつなげるように工夫している。

2 アンケート評価結果に対する見解

資格取得に直結する科目ではないので、毎回のテーマに対しての導入と結論の整合性に毎回苦慮した。しかしながら、19、20歳の立場になり、興味を持てる視点から進めたのがよかったのではないかと感じる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

自分の健康状態や生活習慣に気付き、その習慣をどのように改善していけばいいのかを振り返り気付かせることを目標としている。そのため、複数のテーマから自分の健康にかかわり実践できるような自己の健康づくり方法を述べさせるレポート課題をもって単位認定としている。

4 授業改善の方法

アンケート自由記述欄にあったように、授業中の私語防止のため座席指定を検討する。その他については、これまでどおり、健康という目には見えないが、なくてはならないものを若い世代に理解させ、実践に移すよう動画を利用した授業を心がける。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 小尾 二郎 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 国際理解 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8165 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	3	-	-	5	2	1	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.63						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.75						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	4.13						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	-	100.0%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.13						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.13						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.50						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			12.5%	12.5%	62.5%	12.5%	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.38						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	-	4.50						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.38						

1 授業の概要、特徴等

身近にある問題として考えられるように、内なる国際化や護国神社と海外とのつながりを取り上げた。世界的な問題として、環境や人権を扱った。留学生も受講していたので、彼らの話を聞くことで内容を広げ理解を深めるように努めた。言葉で分かりにくいことがあったら、その都度、理解できているかを確認した。ニュース番組を録画するなど、映像による情報提供を行った。学生の意見を聞くようにして、一方的に話すことは避けた。

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケートを採った日は、たまたま8人の出席があったが、他の日はそれより少なかった。実習でいなかったということもあるが、途中で受講を止めてしまった学生もいる。学生はそれなりに評価していると感じた。学生の関心と私が行った内容とでは、少しずれがあったと思う。学生は先進国中心に関心があったように思う。アジア・アフリカなどにも関心を持ってもらえればと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生は自分たちなりに学習したと思う。こちらの提供した情報で新しい知識などが増えたと思う。この学びで終わるのではなく、今後の生活で行かしてもらえればと思う。留学生がいたことで、交流が今後も続いていくことを望む。成績は、出席(30%)、学習への取り組み(20%)、試験(50%)で行った。総合的に判断して成績を出した。日頃、しっかりと学習していると思われる学生は、成績が良かった。

4 授業改善の方法

学生は、出席率などを計算しながら来ているように思えた。その日にしか学習できない内容であり、休まずに学習に参加してもらえればと思うところである。そうなるためには学習がおもしろいといえるようになる工夫も必要かもしれない。学びの中での楽しさが分かるように学習意欲を高めることができればと思う。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 馬越 かよ子 **職名** : 教授 **所属** : 全学
科目名称 : 人権と差別 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8105cd **授業形態** : 講義 **受講者数** : 68名 **回答者数** : 61名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	60	-	-	-	1	-	60	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.03						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.79						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.00						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 6.6%	やや 多い 16.4%	適切 77.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.43						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.36						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.38						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 11.5%	やや 高かった 24.6%	適切 であった 63.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.31						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.36						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.33						

1 授業の概要、特徴等

人権や差別を生み出すメカニズムについて、「普遍的な視点」や「個別的な視点」の両方からアプローチし、人権問題に対する正しい理解と認識を深める。各回の授業では、終了時にその日の授業内容と授業を通して気づいたことなどについてコミュニケーションカードを提出させ、次回に各人の提出内容を整理・配付して、他者の考えを知り視野を広げさせる。科目の修了に当たっては、学んだことの集大成として、各人が人権メッセージを作成・発表してクラスメートの評価を受ける。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講態度について学生は、自分を振り返り正直に回答していると思われる。人権尊重という当たり前の課題を、知識としてだけでなく心から真に理解する難しさを感じ取るとともに他者に伝えていく使命を果たし得るかについて、問題意識を持ち、しっかりと取り組んでいたことがアンケート結果にも表れていると考えられる。アンケートの実施時期が後期授業の半ばであることから、全体を通しての結果と判断しにくい点があると思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

人権や人権問題に対する認識を深めるとともに「全ての人間の尊厳」を実現する方向に人権感覚や意識の高揚を継続的に図るため、自分自身や社会がどのようにしたらいいかを考察する力を身に着け実践的な行動に踏み出せることを目標とする。出席状況や受講態度30%、指定課題の提出30%、科目修了レポート及び人権メッセージ発表と他者評価40%により総合的に判断して単位認定する。自ら「気づき」「考え」「行動する」ことを評価基準とする。

4 授業改善の方法

9割を超す学生が、授業により新しい知識を得て問題意識や関心が高まったとしているが、既習済みのこととして心を開かないなどの残りの学生に対して他と同じような効果をもたらすためには、発表やグループディスカッション等をさらに工夫して、立体的な授業展開を図り授業の満足度を高めることが必要であると考えられる。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 池田 曜子 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : 心理学 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8125b 授業形態 : 講義 受講者数 : 8名 回答者数 : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	1	-	-	3	1	-	3	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.43						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.43						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.00						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	14.3%	71.4%	-	14.3%	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.57						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	4.71						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.57						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			14.3%	14.3%	71.4%	-	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.57						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.57						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.57						

1 授業の概要、特徴等

心理学の基礎について、講義と実験から理解を深めることをめざした。内容は、認知、行動、学習を中心に、できるだけ身近な事例をとりあげながら、これからも活用できる知識をとりあげた。最終試験においても同様に、身近な例や具体例を用いて、自らの言葉で説明できることを目標として行った。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業の内容から、予習することが困難なものであるため、今後復習のための工夫が必要であると考え。また、実習などとは異なり、なかなか興味や関心が持てない基礎科目であることを、さらに内容を吟味することで改善していきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業でとりあげた内容を、自らの言葉で説明できるようになる。特に、日常の中や実習における場面を想定して知識が活用できることが達成目標となる。

4 授業改善の方法

実際に体験したり、実感できるように内容を工夫する。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 浅野 友子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : フランス語Ⅱ **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8335 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 24名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	15	3	-	-	-	1	-	16	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均				
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.00									
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.11									
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.67									
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	4.00	とても多い 22.2%	やや多い 27.8%	適切 38.9%	やや少ない 11.1%	とても少ない -	無回答 -			
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.11									
授業の進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	3.94									
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.29									
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	4.00	非常に高かった 38.9%	やや高かった 27.8%	適切であった 27.8%	やや低かった 5.6%	非常に低かった -	無回答 -			
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.94									
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.17									
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.06									

1 授業の概要、特徴等

会話表現を練習しながらフランス語文法の初級を学んでいく。受講生の学科は問わず、学外の聴講生も含めて広く受け容れているが、後期科目であるので、フランス語Ⅰの内容を修得している人を対象とする。言語は世界観の表現であるので、外国語学習を通じて異なる考え方に触れ、柔軟な思考を養う一助になれば幸いである。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講生の興味・関心・知識等は一人一人異なっているため、この授業に対する反応もまた、一人一人異なっている。あまり積極的とは言えない学生もいれば、高い目的意識を持って、自主的に予習復習を欠かさない学生もいる。回答を平均すればこのような数値になるだろうと思うが、授業では個々の反応を大事に、できるだけ個別に対応し、受けて良かったと思ってもらえるよう努力したい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価は、授業期間中に何度か行う筆記テストが中心となるが、学生の受講態度・積極性と筆記テストの成績とは、密接に関連している。会話・発音の練習は、毎時間相当の時間行っている。特に数値化はしていないが、成績の良い学生は、きちんと声に出して発音もできている。

4 授業改善の方法

それぞれの受講生が授業を受けて良かった、新しいことがわかったと思ってくれることが教える側の目標である。どのようなレベルであれ、何らかの興味・関心を見出し、その動機付けを維持し続けることのできた受講生は、確実に成績を上げていく。歴史であれ、文学であれ、歌であれ、学生の見つけた関心を後押しできるように、教える側としても懐を大きくし、知識を広げていきたいと思っている。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 宮川 久美 職名 : 教授 所属 : 全学
 科目名称 : 文学 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8130 授業形態 : 講義 受講者数 : 8名 回答者数 : 5名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	5	-	-	1	-	2	2	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価				
				■ 学生の評価平均				
				1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.80	[Progress bar to 4.80]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.80	[Progress bar to 3.80]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.00	[Progress bar to 4.00]				
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い - やや 多い 20.0%	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	80.0%
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.80	[Progress bar to 4.80]				
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.80	[Progress bar to 4.80]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.40	[Progress bar to 4.40]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 20.0% やや 高かった 40.0%	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	40.0%
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.60	[Progress bar to 4.60]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.60	[Progress bar to 4.60]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.50	[Progress bar to 4.50]				

1 授業の概要、特徴等

原則として1時間に一つの作品を取り上げ、その作品を読んで作品の構造を分析し、主題を読み取る。その上で、その主題について自分なりの考えを持ち、主人公の生き方考え方を通して自分の生き方を考える。ディスカッションにより、他の人の考え方にも触れる。

2 アンケート評価結果に対する見解

短い話の場合はその場で資料配付して読んだが、長い話の場合は、事前に資料を配付した。きちんと読んできた人もいるが、読まずに無くしてしまった人もいた。しかし、教室内で読んだときは皆真剣に取り組み、ディスカッションでも説得力のある意見が活発に出て、有意義だったと思う。人間の生き方について、いろいろ考えることもあったように見受けられた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

作品の構造を正確に読み解き、作者の意図を的確に受け取る。受け取った上で、それについて自分も真剣に考え、自分の考えを持つことが目標。レポートにより、それらが達成できたかどうか、評価する。

4 授業改善の方法

できるだけ受講者同士のディスカッションが活発になるよう、講義の早い段階で教員の考えを明かさないようにする。学生に意見を文章でまとめてもらうようにすると主体的に関われるかもしれない。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 寺田 孝重 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : グリーンプランニングⅡ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1615 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	4	-	-	3	-	-	2	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.40	[Progress bar to 4.40]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.00	[Progress bar to 3.00]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.20	[Progress bar to 4.20]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い	やや 多い	適切 100.0%	やや 少ない	とても 少ない	無回答
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.80	[Progress bar to 4.80]					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.20	[Progress bar to 4.20]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.40	[Progress bar to 4.40]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった		非常に 高かった	やや 高かった	適切 100.0%	やや 低かった	非常に 低かった	無回答
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.20	[Progress bar to 4.20]					
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.40	[Progress bar to 4.40]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.80	[Progress bar to 4.80]					

1 授業の概要、特徴等

圃場やプランターにおける実習や施設での特別研修を特徴としており、その成果は十分に発揮され、学生も貴重な体験をしているが、現時点でその評価ができていないのかも知れない。しかし、いずれその効果に気付いてくれると思われる。その事は、施設研修に参加してくれた2年生の様子からも十分感じられる。

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケート結果は妥当なものであり、特に⑤、⑪で評価の高いことに満足している。ただ、②が低いのは、実習が多くを占め、講義の中で復習的総括を行なっていることが学生側に伝わっていないのではないかと考えられた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生の言動などから判断して、授業目標は達せられていると思われる。単位認定方法は継続するつもりである。

4 授業改善の方法

今回、受講希望者数は多かったにもかかわらず、実受講者が意外に少なかった理由について、教務の方にも分析をお願いしたいと思う。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 池田 曜子 職名 : 非常勤 所属 : 生活未来科
 科目名称 : こころとからだのしくみ I 科目群 : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
 授業コード : 1550 授業形態 : 講義 受講者数 : 20名 回答者数 : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	-	-	-	13	1	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					
			■ 学生の評価平均					
			1	2	3	4	5	
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.14	[Progress bar to 4.14]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.57	[Progress bar to 2.57]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.14	[Progress bar to 4.14]				
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	とても多い 7.1% やや多い 14.3% 適切 78.6% やや少ない - とても少ない - 無回答 -	[Progress bar to 4.14]				
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.36	[Progress bar to 4.36]				
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	4.21	[Progress bar to 4.21]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.43	[Progress bar to 4.43]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に高かった 14.3% やや高かった 28.6% 適切であった 57.1% やや低かった - 非常に低かった - 無回答 -	[Progress bar to 4.43]				
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.00	[Progress bar to 4.00]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	3.93	[Progress bar to 3.93]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.07	[Progress bar to 4.07]				

1 授業の概要、特徴等

心理学の基礎について、講義と実験から理解を深めることをめざした。内容は、認知、行動、学習を中心に、できるだけ身近な事例をとりあげながら、これからも活用できる知識をとりあげた。最終試験においても同様に、身近な例や具体例を用いて、自らの言葉で説明できることを目標として行った。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業の内容から、予習することが困難なものであるため、今後復習のための工夫が必要であると考える。また、実習などとは異なり、なかなか興味や関心が持てない基礎科目であることを、さらに内容を吟味することで改善していきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業でとりあげた内容を、自らの言葉で説明できるようになる。特に、日常の中や実習における場面を想定して知識が活用できることが達成目標となる。

4 授業改善の方法

実際に体験したり、実感できるように内容を工夫する。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 森田 婦美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : こころとからだのしくみⅢ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1560 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 17名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.07						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	1	3.29						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.93						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	35.7%	57.1%	7.1%	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.50						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	4.57						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.71						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			14.3%	42.9%	42.9%	-	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.43						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	-	4.64						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.50						

1 授業の概要、特徴等

この科目は解剖生理学が理解できていないと進めることができない科目である。しかし、学生のほとんどは理解していないままか、または、忘れていた状態であるため、単元を進めるにあたって、基礎理解として解剖生理学から導入していった。学生は授業を受けているから、理解しているという概念から、重ねて授業を受けることで理解していくという概念によって、少しずつであるが、学習効果をあげることができたと感じる。

2 アンケート評価結果に対する見解

反応があまりなかったため学習そのものに興味をもていないのかと感じていたが、学生は興味を持って授業に臨んでいたことがアンケートより、把握できた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

一度の試験では到達できず、再試験によって、学習方法がわかり、到達できたと評価する。

4 授業改善の方法

学生は見たこともない医療的な内容の授業のため、できるだけ視覚を通じた授業展開が必要である。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 森永 夕美 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : コミュニケーションの基本 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1250 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 17名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	15	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.20						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.27						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.87						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	33.3%	66.7%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.27						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.47						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.40						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	53.3%	46.7%	-	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.27						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.20						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.33						

1 授業の概要、特徴等

対人援助職である介護福祉士にとって必要なコミュニケーション技術について学ぶ授業となっている。コミュニケーションの意義と目的から、コミュニケーションの際の各技法について、また、コミュニケーション障害のある利用者への対応方法、そして、記録や報告連絡相談・カンファレンスなどチームとして働く場面のコミュニケーション方法について理論と実践を学ぶ。

2 アンケート評価結果に対する見解

予習・復習してきた学生が少ないが、コミュニケーションは自分たちの身近なもので、特に予習・復習しなくとも理解できると思っていたことが考えられる。授業の進め方に関しては、出来るだけ理解しやすく事例・演習も交えて参加型で取り組めるよう配慮を行った結果と考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標のコミュニケーションの基本を理解するのは出来たと考える。成績評価基準は、コミュニケーション技術の知識は、知識と技術が実践を通してでなければ身につくものではないため、試験だけでなく平常点である授業態度や課題の提出を半々で行った。今後も一回の試験より、授業での取り組みなどでの評価重視でよいと考える。

4 授業改善の方法

前半のコミュニケーションの理論と基本的技法にややウエイトを置いてしまい、後半の時間が少なくなりました。報告連絡相談や記録・カンファレンスに関しては介護総合演習とかぶる点も多いので内容を整理する必要があります。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 富岡 郁子 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 生活支援技術Ⅱ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1310 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均												
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5								
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.29																	
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.79																	
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	4.21																	
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	<table border="1"> <tr> <td>とても多い</td> <td>やや多い</td> <td>適切</td> <td>やや少ない</td> <td>とても少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>7.1%</td> <td>35.7%</td> <td>57.1%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答	7.1%	35.7%	57.1%	-	-	-					
	とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答														
7.1%	35.7%	57.1%	-	-	-															
授業の進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.36																	
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.50																	
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.57																	
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	<table border="1"> <tr> <td>非常に高かった</td> <td>やや高かった</td> <td>適切であった</td> <td>やや低かった</td> <td>非常に低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>28.6%</td> <td>35.7%</td> <td>35.7%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答	28.6%	35.7%	35.7%	-	-	-					
	非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答														
28.6%	35.7%	35.7%	-	-	-															
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.50																		
総合評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.43																	
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.21																	

1 授業の概要、特徴等

前期生活支援技術Ⅰに続く、週1回2コマ続きの介護実技を習得する演習科目。生活支援技術、介護技術の基本を分野別に学びを進め、後期後半では、介護を受ける対象者を想定して、生活場面における介護を一人で行うことができるようになることを目的としている。16名の受講生に対して、直接身体に触れる都合上、男女別グループとなりベッド1台あたり2～3人で使用する。教員の説明、デモンストレーション、学生演習、評価、振り返りの実技修得を行う。

2 アンケート評価結果に対する見解

概ね受講態度は良好であるが、予習がなされていない傾向にある。他科目の知識を習得することで予習したかのような考えになるものかと思われる。知識を実際に活用して介護実技を展開させなければならないが、知識と介助の技術が合致しない。限られた2コマで一つの分野を学び、一通りの演習は行うが、じっくり繰り返し練習しなければ身に付かないので、授業以外の空き時間に復習が望まれる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

介護が必要な利用者の日常の生活場面を想定して、すでに演習で行った課題の実技試験と、それを網羅した理論、知識を問う筆記試験の両方の合格により単位認定を行っている。教員は複数体制であり、各分野ごとに主指導者、各グループベッドごとに主、補助の立場で教員がほぼマンツーマンで関わっている。実技試験についても複数の目で評価している。

4 授業改善の方法

本学年の特徴として「書くこと」が苦手であり、丁寧、繊細さを欠くため、自分の行った介護技術を含む生活支援技術の一つひとつの動作を分析的に見ることができない。これは、冷静さ、自分のとる行動の原点となる感じ方、行動の根拠が明確でなく、理解度を高める必要性を考える。自分の行う介護状況を「書き出す」ことに後期取組み、効果があつたように思うので続ける。また、これからの職業意識に幼なさを感じ、人に関わることの尊厳や重大さ、責任性についても意識を高めながら、理解度も繰り返し確認し指導していく。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 竹花 正剛 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : セラピー概論 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1230 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 42名 **回答者数** : 38名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	38	-	-	37	-	-	-	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.34					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.34					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.61					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 多い	とても 多い - やや 多い 28.9%	適切 63.2%	やや 少ない 5.3%	とても 少ない 2.6%	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.29					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.00					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.34					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 5.3% やや 高かった 39.5%	適切 であった 55.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.21					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.37					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.29					

1 授業の概要、特徴等

ヒューマン・アニマル・ボンド (HAB) の考え方、基本理念をベースに、動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について、歴史、理論、研究法、実践研究、活動について視覚教材も使用しながら概観する。社会福祉・介護福祉分野において、アニマルセラピーはどのような位置づけにあり、実際どのようななかかわり方ができるのかについて、実践的観点からも考える。実際に自閉症児のセラピーに携わっている犬を毎回帯同し、実際のセラピー場面の動画も可能な限り使用しながら、アニマルセラピーの福祉教育における適用可能性を考えてもらう。

2 アンケート評価結果に対する見解

講義資料に関しては、5回分のスライドデータを配布したが、評価の関係上、授業半ばでレポート提出を行ったために、この分野の情報がそれほど一般化されていないために、また本講義の目的と意図が十分に把握できていない時点でレポート提出を求めたために、理解度が進んだ上でのレポート作成ができたかに反省がある。ただし、講義を通して、アニマルセラピーの効果やヒューマン・アニマル・ボンドの意義については理解できたとは思われるが、講義初回までに全講義のレジメを配布しておいた方がよかったと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

近年福祉施設で動物を介在した活動が増えつつある。私の専門が障害児の心理学と臨床であり、臨床的な対人援助技法の一環としての動物介在療法であり、授業の目標は達成できたと考える。成績評価に関しては、オムニバス講義であり、他の教員との評価基準の整合性を配慮する必要がある。単位認定に関して、オムニバス形式ではなく、それぞれ半期もしくは通年でより深く学習し、その中に演習課題を導入しながら単位認定にふさわしい講座を提供できればよいと考える。

4 授業改善の方法

5回のオムニバス講義の中では、必要な情報をコンパクトに盛り込む形式になりがちであり、1つ1つのテーマに関して掘り下げディスカッションし、演習といった形式は限られるが、予めそのテーマに関する情報を先に提供し、グループ討議を入れていきたい。前期を通しての講義であれば、後半は各グループごとに福祉の中での動物介在の効果を図った取り組みについてまとめて発表するといった形式の講義を行ってみたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 尾崎 剛志 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 低所得者に対する支援と生活保護制度 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1730 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	4	2	-	-	2	-	-	4	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.50						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	2.83						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.17						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い -	やや 多い 33.3%	適切 66.7%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.17						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.17						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	3.83						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 33.3%	やや 高かった 16.7%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.83						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	2	4.17						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	2	3.83						

1 授業の概要、特徴等

低所得者とはどのような生活状況の人を指すのか、それぞれの生活体験に照らし合わせながら考える。そこから、そのような生活に陥ったり、続いたりすることについての不安や困りごとを考える。低所得者に対する支援が歴史的にどのように経緯で進展して来たのかを踏まえ、日本の生活保護制度について学ぶ。生活保護制度は近年、特に変化が大きく、制度の詳細を学んでも、次年度には大きく変わることも考えられることから、原理・原則や制度の大枠を理解できるように進めた。また質問は多く投げかけるように心がけた。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講態度については、他の科目と比較して低く、本授業を欠席して、他の授業の準備をすることなどもあったようである。予習については、シラバスに示してあるものの、何をすれば良いのか、今一つ理解できないものであったのかもしれない。また、課題についてはレポートを一回、小テストを2回実施したが、社会人学生は取組がまじめであったが、一般学生は、取り組んだ様子は見られなかった。授業の進め方や総合評価については、学生が次年度のこともあり、気を遣ったのではないと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

低所得者とはどのような生活状態の人であるのか、ということについてはある程度理解できたと思われるが、歴史的背景については半分も理解できていないと思われる。また生活保護制度についても、誰かに概略を説明できるほどのレベルに達しているのは若干名である。成績評価については、それなりのレベルで評価を行っており、単位認定についても問題は無いと考える。

4 授業改善の方法

自由記述で、ビデオを見たい(エピソードの記憶が必要なかもしれない)という意見があり、今の学生を考えた際に、文字による授業では問題があった。ただ、適切な授業材料が見つからず、最後のほうでようやくそれを確保したが、授業の進行上、利用できなかった。次年度は視聴覚等教材を交えながら進めていきたい。板書の量については、多いと言う意見も見られるが、授業に取り組むために必要な量を提示しているつもりである。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 笹谷 真由美 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 認知症の理解 I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1515 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 17名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	15	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.07						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.53						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.87						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 20.0%	やや 多い 26.7%	適切 53.3%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.20						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.33						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.07						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 26.7%	やや 高かった 26.7%	適切 であった 46.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.33						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.20						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.13						

1 授業の概要、特徴等

認知症の原因疾患とその治療法、予防法、さらにケアのあり方についての基礎知識を講義形式で行う。知識を身につけるにあたって、疾患や利用者の状況がイメージしづらいことが多いため、DVDとの画像を視聴することも取り入れ、学生自身の考えも表現できるように、演習も行った。

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケート結果から、授業の進め方に関しては概ね高い評価となっているが、受講態度に関しては、特に予習・復習は行っていない可能性が高いことが、アンケート結果から推察され、大きな課題であると考えられる。内容が多岐にわたるため、受講する学生の負担も多いことが考えられるが、授業のレベルは適切との回答も高いことは、何を意味しているのか更なる分析が必要である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標の達成に関しては、個人差がかなり大きい。前述したように内容が多岐にわたることから、振り返りが何度でもできるような小テストを5回行った。しかし、学生によっては繰り返し回答率の低かった内容をテストに出しても、また同じ誤りをするが見受けられたことから、授業方法の更なる工夫が必要であると考えられる。

4 授業改善の方法

授業の目標としては、学生が認知症に関する理解を深め、ケアに応用できることである。そのためには、ただ単に知識を蓄積していくことだけが目的ではなく、まだまだ未知の部分も多い認知症についての関心を深め、自己研鑽していく力を養うところにある。そのため、学生の関心が高められるような工夫を今後も模索していきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 須谷 和子 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 栄養指導論実習 I **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2210 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 47名 **回答者数** : 41名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	40	-	1	-	-	41	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.27										
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.73										
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.05										
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	4.9%	22.0%	73.2%	-	-	-					
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.22										
授業の進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.33										
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.24										
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	14.6%	34.1%	48.8%	2.4%	-	-					
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.17										
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.32										
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.10										

1 授業の概要、特徴等

栄養指導をするにあたり、必要な知識（食生活指針、食事バランスガイドの概要、荷重平均栄養成分計算、食品群の特徴、献立作成、パソコンを使用した栄養価計算、一週間の献立作成、献立評価食品比率の算出など）を理解し、献立作成ができることを最終目標としている。今年度は学生数増加に伴いパソコン教室の確保が難しく、学生の理解度の格差が顕著にみられたため、予定していた内容をすべて実施することができなかった。特に秤量実習を実施することができなかった。

2 アンケート評価結果に対する見解

栄養士として現場で仕事をするうえで1週間分の献立がスムーズに立てられることは必須条件である。そのため栄養価計算からはじまり、手書きの献立作成、パソコンの「栄養君」ソフトを用いた作成と段階を踏んで説明を行っている。メニューを考える時の材料の量がわかっているようでわかっていない、という学生の自由記述があった。対応としては2回生の栄養指導論実習Ⅱの中で今年度できなかった秤量実習を行うことを計画している。全体として、学生の理解度によって個々に対応し緩やかにした部分もあった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標達成は栄養君を使って1週間分の献立がスムーズにたてられるようになることである。成績評価基準は授業態度30%、課題提出50%、小テスト20%とした。小テストについては栄養価計算等を実施し、栄養士として必要な計算力を身に付けてもらい確認を行った。献立作成を課題とし、栄養価が充足されていなかったり食材の組み合わせを再検討する必要がある学生に対しては、出来るまでやり直しをさせ最終評価を行った。

4 授業改善の方法

昨年同様、計算力がなかなか身につかない学生が多いので、もう少しこまめに小テストを行い、記憶の定着に努めたい。献立作成については、スマートフォンのアプリなどで簡単に検索することができるため、そのデータの引用が見受けられる。実際の調理に活用できるかしっかり確認してもらいたい。秤量実習について来年度はできるだけ早い時期に実習を行いたい。2回生の栄養指導論実習につなげるために、栄養指導ツールに関心を持ってもらえるような工夫もしていきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 松本 範子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 運動生理学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2130 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 32名 **回答者数** : 31名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	31	-	-	-	31	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.84	[Bar chart showing student evaluation average for item 1]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.00	[Bar chart showing student evaluation average for item 2]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.45	[Bar chart showing student evaluation average for item 3]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答
				-	19.4%	77.4%	3.2%	-	-
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.35	[Bar chart showing student evaluation average for item 5]					
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.19	[Bar chart showing student evaluation average for item 6]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.27	[Bar chart showing student evaluation average for item 7]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった		非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答
				3.2%	29.0%	67.7%	-	-	-
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.19	[Bar chart showing student evaluation average for item 9]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.26	[Bar chart showing student evaluation average for item 10]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.32	[Bar chart showing student evaluation average for item 11]					

1 授業の概要、特徴等

・運動の仕組みや運動による身体の生理機能について理解する ・運動と栄養の関係について理解する ・健康増進のための運動、および疾患の運動療法への応用を理解する 上記3点を学ぶために、DVDを用い、図式で理解を促すなど行った。

2 アンケート評価結果に対する見解

少人数であったため、理解の確認や授業進行に付随して出た質問事項についても 運動と栄養の観点から、考える時間を用いたことが、分かり易く雑学的に知識を身に付けられた評価につながったと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成としては、身体のしくみを網羅することはできなかったが、運動をする上での筋や神経のしくみは把握できたと考える。また、成績評価は出席回数及び試験結果を大きく反映させている。

4 授業改善の方法

授業における質疑の発言者が固定される傾向があったため、全員が発言しやすい環境と雰囲気づくりを心掛けたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 池内 ますみ **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食品材料学(加工学を含む) **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2150 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 53名 **回答者数** : 46名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	41	4	-	1	3	41	-	1	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.02					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.26					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.11					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	とて も 多 い 6.5%	やや 多 い 32.6%	適 切 60.9%	やや 少 な い -	とて も 少 な い -	無 回 答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.28					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.35					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.22					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適 切 で あ っ た	非 常 に 高 か っ た 6.5%	や や 高 か っ た 41.3%	適 切 で あ っ た 52.2%	や や 低 か っ た -	非 常 に 低 か っ た -	無 回 答 -
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.15					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	-	4.26					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.15					

1 授業の概要、特徴等

前期の食品科学で食品学の総論を行った後、各論にあたる授業である。前期の総論では食品の成分を中心に話を進めるため、学生は具体的なイメージを掴みにくいものに対して、食品材料別に成分を絡めながら各食品の特徴について学習するため、この授業は比較的學生にとって理解しやすい。食品の種類は多く、近年は輸入食品も多くみられるようになり、家庭で食べたことがないような食品についての知識を身につけることが必要である。

2 アンケート評価結果に対する見解

パワーポイントを使い食品の成分の特徴等を示すため、ポイントがわかりやすいという記述がある一方で、パワーポイントの進め方が速すぎるという記述も見られた。15回の授業で内容をすべてこなす必要があるため、ノートを取るスピードが遅い学生に対しての対策が必要と考える。成分表から各食材の特徴を読み取る課題を食品材料ごとに課しているが、予習・復習の時間を取るためにもさらに課題設けることも必要であろう。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

栄養士に必要な食品の知識を身につけることが必要であるが、今年では社会人学生、外国人留学生、クラス外からの履修など多様な学生が混在するクラスであったため、達成度に顕著な差がみられた。再試験となった学生のうち、資格取得が関係しないケースでは受験を放棄する学生も複数見られた。

4 授業改善の方法

授業の初めに授業の進め方について(課題、ノートテイク、評価方法など)十分に理解させ、学生が自主的に学習を進められるよう工夫する。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 毛受 真由美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 人体の構造と機能Ⅱ **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2120 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 47名 **回答者数** : 39名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	39	-	-	-	-	39	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.23						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.46						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.08						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 7.7%	やや 多い 38.5%	適切 53.8%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.26						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.31						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.23						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 12.8%	やや 高かった 41.0%	適切 であった 46.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.03						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.26						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.31						

1 授業の概要、特徴等

後期のこの講座では、消化器官、腎臓・泌尿器系器官、内分泌器官、神経系、をあつかった。教科書の他にレジュメを用意し、難関で幅広い内容の中から栄養士の基礎知識として必要なポイントに絞って理解できるように授業をすすめたつもりである。難しい専門用語は聞きなれた言葉に置き換えたりしながら授業をすすめたので、授業を聴くことができれば、必要な知識は理解できたと思う。

2 アンケート評価結果に対する見解

一部の学生の私語が他の学生の受講の妨げになっていたことは残念である。「マナーは周囲への思いやりである」と幾度か話したと思う。2回生の授業ではぜひ実践につなげてほしい。専門性の高い科目のため授業のレベルがやや高いと感じる受講生が多いが、そう感じながらも理解しようと頑張っていた学生が大半だと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

単に専門用語を暗記するだけではなく、ヒトのからだの生理的なしくみを理解して、疾病の成り立ちを理解する土台となる知識の習得と、同時に栄養食事療法の目的や原理を理解する基礎知識の習得を目標とした。授業内にレジュメにそったペーパー試験を複数回おこない、その点数で評価したが、授業を聴いて理解していれば解答可能な問題を取り入れ、授業態度も点数に反映されるようにした。

4 授業改善の方法

栄養士として必要な知識の習得のため、授業レベルを下げることはできないので、難しいと感じても興味を持って授業が開けるように、身近な話題などもおろませ授業を進めたい。今までも授業中の質問、発言は自由に認めていたが、今後もっと積極的に授業に参加できるよう促していきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 箕山 なおみ 職名 : 助教 所属 : 生活未来科
 科目名称 : 専門調理 科目群 : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
 授業コード : 2300 授業形態 : 実習 受講者数 : 19名 回答者数 : 19名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	19	-	-	-	19	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.21						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.16						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.74						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 5.3%	やや 多い 10.5%	適切 84.2%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.42						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	5	4.37						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.37						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 5.3%	やや 高かった 36.8%	適切 であった 52.6%	やや 低かった 5.3%	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.42						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.47						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.63						

1 授業の概要、特徴等

2 アンケート評価結果に対する見解

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 島村 知歩
 職名 : 講師 所属 : 生活未来科
 科目名称 : 調理実習Ⅱ
 科目群 : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
 授業コード : 2260ab 授業形態 : 実習 受講者数 : 46名 回答者数 : 39名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	39	-	-	-	-	39	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.54	[Progress bar from 1 to 4.54]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.72	[Progress bar from 1 to 3.72]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.62	[Progress bar from 1 to 4.62]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 2.6%	やや 多い 17.9%	適切 79.5%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.67	[Progress bar from 1 to 4.67]					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	5	4.53	[Progress bar from 1 to 4.53]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.56	[Progress bar from 1 to 4.56]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 7.7%	やや 高かった 17.9%	適切 であった 74.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.51	[Progress bar from 1 to 4.51]					
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.54	[Progress bar from 1 to 4.54]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.54	[Progress bar from 1 to 4.54]					

1 授業の概要、特徴等

2 アンケート評価結果に対する見解

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 井上 彩 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : イラスト・画像処理 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3405 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学 年				学 科 ・ コー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	3	-	1	-	-	-	3	-	-	1	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	5.00		■ ◆				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.50		■ ◆				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	5.00		■ ◆				
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い	やや 多い	適切 100.0%	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	5.00		■ ◆				
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	5.00		■ ◆				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.75		■ ◆				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 低かった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 25.0%	適切 であった 50.0%	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	5.00		■ ◆				
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	5.00		■ ◆				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	5.00		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

Photoshop及びIllustratorの2種類のソフトウェアを使用して課題に取り組みます。生徒は基本的な操作を学んだ後、課題に沿ってそれぞれに制作活動を行います。デザインすること、なにかを0から造り出すことにおいて、「正解」は存在しません。そして、同じ基本操作を学びながらも、一人一人がまったく違った発想をもち、違ったものを生み出します。それをプレゼンテーションして、アイデアを他の人と共有します。

2 アンケート評価結果に対する見解

「この授業について、予習・復習をしましたか」という質問について「ある程度思う」と「どちらとも言えない」という解答が多かったようです。この授業における予習・復習は日常生活の中において身の回りのデザインや風景を観察すること、また自身の好きなものについて「自分は何が好きなのか? どうして好きなのか? どこか可愛いと感じるのか?」と探求することでした。授業の回数が重なるにつれ、個人個人が自らの好みやテイストを持ち、表現していたので予習・復習をしっかりとっていたのだと思います。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

この授業の目的は、生徒が自ら創造する力を引き出すことでした。ものごとを表現すること、相手に伝えることの手法のひとつとしてデザインを学んでほしいと思い、毎回の授業を進めました。授業で制作したデザインに正解はありません。また、講師個人の好みで作品を評価することも勿論ありません。提出およびプレゼンテーションされた成果物はそれぞれの生徒が持つ個性がでておりましたので、何よりそのことを高く評価したいと思いました。

4 授業改善の方法

パソコンを使用し、さらに専門的なデザインのソフトウェアを操作する授業だったので、クラス内での理解速度に大きな差がありました。授業はひとつひとつの動作を全ての生徒が理解出来ているか確認した上で進めていきました。理解が早く操作も難なく進めることが出来た生徒にとってはそのスピードが遅く、また、課題の量も物足りなかったのではないかと思います。改善方法としては、①簡単なメモやノートを取る習慣をつけさせること(何度も同じ箇所でも中断してしまうケースを避けるため)。②ある程度の段階までの操作説明が終了した時点で、「先に課題に取り組む生徒」と「もう一度操作方法を学ぶ生徒」に分けて授業を進める必要があると感じています。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 中村 妙子 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : カラーコーディネート演習 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3430 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 24名 **回答者数** : 21名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	17	4	-	-	4	12	5	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.95						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.38						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.14						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 14.3%	やや 多い 14.3%	適切 66.7%	やや 少ない 4.8%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.48						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.52						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.48						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 57.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.43						
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.33						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.48						

1 授業の概要、特徴等

カラーコーディネート論を基礎として、カラーコーディネーター検定試験(3級)の合格を目指している。色の性質、色の心理、色の表示、配色、色が見える理由、色の文化など、幅広く色彩の基本的な知識を修得し、仕事に役立つ実践的な色彩の知識を学ぶ。また、テスト形式で数多くの問題を解き、修得した知識が身についているかどうか検証する。

2 アンケート評価結果に対する見解

カラーコーディネーター検定試験(3級)を目指した選択科目なので、学生は、目的意識を持っており、概ね真面目に授業に参加をしていた。その授業態度は、アンケート結果にも現れていたように感じる。ただ、問題を配布し、出来なかったところは宿題にしておいたが、“予習・復習”の項目では、“どちらともいえない”が24%もあり、宿題の難しさを感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

カラーコーディネーター検定試験(3級)合格する程度まで、知識を身に付けることを目標達成率としているが、検定試験合格率は50%である。受講者全員が検定試験を受験したわけではなく、学内においてもカラーコーディネーター検定試験(3級)程度の問題を作成し、筆記試験を行って目標の達成を検証した。その結果に平常点を加味し、成績評価を行い、単位認定した。

4 授業改善の方法

学生は、問題を多く解くことによって知識が身につくと話しているが、説明する時間が長くなり、問題を解く時間が短くなったりと、宿題になったりしている。説明を丁寧にして、後は、学生自身で考えて欲しいところだが、なかなか授業以外の時間が取れないようであるので、説明時間の短縮を図り、授業時間内に自分で考える時間が十分に取れるように心がけたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 向井 光太郎 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 経営学総論 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3150 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 11名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	6	-	-	5	-	2	4	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.45										
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.36										
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.27										
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	4.45	とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答	90.9%	-	-	-
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.55										
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.64										
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.73										
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった	4.36	非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答	9.1%	27.3%	63.6%	-
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.36										
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.36										
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.64										

1 授業の概要、特徴等

この科目では、経営学の理論を体系的に学ぶ事よりも、学生を取り巻く生活の中で彼らを支えるビジネスの枠組みに特に関連性の高い理論やエッセンスをピックアップして取り上げ解説した。戦略、組織、IT、人材育成について、履修学生全員をある企業の組織と仮定して、学生の発想力や視点から「あるべき姿」を考えさせる事を目指した。

2 アンケート評価結果に対する見解

本科目とその領域は、4年制大学生や社会人大学にとっても理論を体系的に学ぶに時間とある程度の実務経験が必要な難易度の高いものである。本学の履修者にとって将来の就職先や担当すると予想される職務内容と直結する可能性が低いので、内容を分かりやすく解説することを試みた。経営に関する多くの専門用語が多くなるので、実例を交えて工夫して授業を展開したことにより満足度が相対的に高いものになった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本学の教育理念「一、自律する人 二、自己と他者を尊重する人 三、事象に自ら関わる人」を、教養面(専門知識、専門技術)、人間性(マナー、就学意識)、思考力(課題発見力、課題解決力)、行動力(チームワーク、情報発信力)の点から評価した。そこで、講義への出席回数、講義態度、観点、情報量、プレゼンテーション、記述力に分けて客観評価を行い採点し、単位認定に結びつけた。また、自身の考えやアイデアを科目の理解度と共に学期末試験で評価した。

4 授業改善の方法

経営学の理論を体系的に学ぶことよりも、経営感覚やマーケティング感覚を刺激することをこの科目では心がけた。そのため、教科書を積極的に活用してその中でも選別したテーマ設定での講義を行い、マーケティングの解説も加えた。アルバイトや将来の進路に関わる題材を選んで、経営学を身近に感じられるように心がけ、消費者を起点にした仕事感覚を養えるようにした。これからも、ケーススタディのセレクションと学生のアイデアやヒントを誘発するコミュニケーション重視の講義形式設計にはこだわりたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 谷村 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 経理実務Ⅱ **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3170 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	4	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	1	3.25						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.00						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.75						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 25.0%	やや 多い 50.0%	適切 25.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.50						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.25						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.25						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	非常に 高かった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 25.0%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	3.50						
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.67						

1 授業の概要、特徴等

前半では、経理実務Ⅰで学んだ簿記知識に基づく決算手続きに関する講義を行い、後半では、それらの知識を使った企業分析を行った。特に後半では、定量的分析のみならず定性的分析も含めた総合的な企業分析を行い、プレゼンテーションさせることで、社会や企業に対する関心度を高めることに尽力した。また、それぞれのモチベーションや理解度の差に留意しつつ、各自の経験を引き出し共有させるよう工夫した。

2 アンケート評価結果に対する見解

おおむね妥当ではないかと考える。モチベーションと理解度の低さに関しては、今年度の大きな課題であった。特に前半の簿記知識に基づいた決算手続きは、もともと学生にとって関心のないテーマと見受けられたため、身近な企業事例を解説したりテレビドラマの事例を持ち出したりと、様々な工夫を凝らしたが、多くの課題を残す結果となった。後半の企業分析では、各自の能力や関心を引き出すことができたと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

「簿記の概念や経理の仕事の大づかみに把握する」という当初の目的は、概ね達成できたと思う。しかし、モチベーションの低い学生が多く、出席率も低かったことから、昨年の理解レベルを大きく下回っていたことは否めない。結果、必要最小限の知識を身につけてもらうことに徹したため、講義の範囲を絞り込んだり、試験では難易度や範囲を大幅に下げたりすることになった。

4 授業改善の方法

毎回簡単な確認テストのようなものを行い、各自の理解度を確認しながら進めていきたい。また、モチベーションの低い学生に関しては、全体の進捗に留意しつつも授業の中で積極的な発言を促し、承認することで、モチベーションを高めるよう配慮したい。さらに、今までの経験に基づいた学生同士のディスカッションや身近な事例分析により多くの時間を割き、経理実務への関心度を高める工夫をしていきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 東出 加奈子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : ゼミナールⅡ **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3920 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均				
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.40									
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.80									
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.20									
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切		とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答			
				-	-	100.0%	-	-	-			
授業の進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.80									
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.60									
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.60									
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった		非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答			
				-	20.0%	80.0%	-	-	-			
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.60									
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.40									
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.80									

1 授業の概要、特徴等

現代の社会情勢や経済動向を踏まえ、将来、職業人として適応するための基礎を身につける内容である。自らの職業観や勤労観といった概念の形成を前提に、基礎的なコミュニケーションや情報の活用について理解する力を身につけることを目指した。とくに新聞記事を取り上げ、自らの意見を述べるができるよう発言の機会を設け、問題解決のための技法を習得できるよう進めていった。

2 アンケート評価結果に対する見解

各項目において授業で目指していた内容と大幅に差がなく、おおむね良い評価であった。将来に役立つ内容であったと思う項目については、力を入れた点であり伝えることができたと考え。一方、授業のレベルがやや高かったという少数意見もあり、一人一人の理解度を確認しつつ進めていくことも心がけていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

前半は授業のなかで提起するテーマについて、自らの意見を述べるという形式で進めていった。後半においては、受講者自らがテーマを提起し、その内容について皆でさまざまな問題点を意見交換しあう機会を設けた。したがって、参加することの重要性から出席率、各テーマにおける積極的な参加意識、テーマ提起の準備から総合評価を行った。

4 授業改善の方法

日常において、新聞やニュースといった情報網に意識を持ってもらえるよう、身近な話題を中心に進めていった。職業観を高めるうえで、企業の役割や責任に関する内容を多く取り入れていくことが必要であると考え、さらに仕事に直結するテーマを折り込み、知識を深めていけるよう進めていきたいと考える。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 向井 光太郎 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 卒業研究 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3950 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 4名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	3	-	-	-	-	4	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.00	[Bar chart]					[Bar chart]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	5	4.00	[Bar chart]					[Bar chart]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.50	[Bar chart]					[Bar chart]				
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切		とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答	75.0%	25.0%	-	-
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.50	[Bar chart]					[Bar chart]				
授業の進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	5.00	[Bar chart]					[Bar chart]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.75	[Bar chart]					[Bar chart]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった		非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答	75.0%	-	25.0%	-
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.50	[Bar chart]					[Bar chart]				
総合評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.75	[Bar chart]					[Bar chart]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.00	[Bar chart]					[Bar chart]				

1 授業の概要、特徴等

この科目では、前期に研究テーマ設定と研究のシェア、後期をプロジェクト演習および個人研究機会として、個人研究における研究モチベーションを向上させながらビジネス社会における課題にも通じる研究テーマを設定して個別に研究する事を目指した。後期は、各自のテーマに関係するフィールドワーク(学外実習)も盛り込み、商品・サービス・地域とビジネスとの関わりの意識を高める事を目指した。

2 アンケート評価結果に対する見解

研究課題については、スケジュール設定と進捗管理を更に徹底させるべきだった。昨年度に盛り込んだプロジェクト型グループワーク(ビジネスプラン作り)を今回はビジネス実践演習にシフトしたので、個人研究に集中することが出来た。ただし、学生自身が事前課題への取り組みが不十分とのアンケートリアクションを行っている面は、教員側も課題を求める指導からもサポート出来たはずだ。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本学の教育理念「一. 自律する人 二. 自己と他者を尊重する人 三. 事象に自ら関わる人」を、教養面(専門知識、専門技術)、人間性(マナー、就学意識)、思考力(課題発見力、課題解決力)、行動力(チームワーク、情報発信力)の点から評価した。そこで、講義への出席回数、チームワーク、講義態度、研究調査プロセス、観点、情報量、プレゼンテーション、個人研究発表に於いて客観評価を行い採点し、単位認定に結びつけた。ビジネスの現場で必要になる「獨創性」の有無を特に評価した。

4 授業改善の方法

この演習科目では、個人研究に集中させる構成が必要だ。テーマを早い段階で設定させ、その関連文献を検索するため図書館の協力による文献・情報検索のセミナー講義を行った。また、常に進捗をシェアするための中間報告機会を作り、個人研究テーマへのモチベーションを高めさせることを目指した。個人研究の進捗状況を学生同志が共有し、最終成果としての卒業論文提出を1月初旬に設定した。そのため、余裕を持って卒業研究発表準備(学内、学外)を進めることができ、その発表からフィードバックしたものを最終論文として提出させることができた。スケジュールと進捗状況の管理については、段階的に教員と学生が可視化できるような工夫が必要だ。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 上野 信子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : プロダクトデザインⅡ **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3444 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	4	-	-	-	-	9	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.11						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.22						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.11						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	22.2%	55.6%	22.2%	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.56						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	3.89						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.11						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			11.1%	11.1%	66.7%	-	-	11.1%	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	3.44						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.67						

1 授業の概要、特徴等

プロダクトデザインを広く、モノ・コトのデザインと捉え、具体的な事例を紹介することで、「デザイン」が、豊かな生活の実現や課題解決、コミュニティ形成などに寄与していることを理解する。そして、日常的に、身の回りの様々な事象を多角的に捉えるトレーニングとして、授業の最初に、発見したコトやモノのデザインについて、各自プレゼンすることで、授業への主体的参加を促す。さらに、授業の終わりには、感想・意見・質問を提出し、次の授業で、補足・説明などを行い、確認しながら授業を進める。

2 アンケート評価結果に対する見解

今回は、1回生と2回生の合同授業であったこともあり、内容のレベルをどちらに合わせていか模索していた。それが、1回生には難しい、2回生には、事例について深みが足りないといった意見が出たように思う。ただし、事例については、なぜその事例が紹介されたか、理解できていない場合も少なくなかったようだ。今後は、理解の確認をするような質問を投げかけ、理解度を確かめながら、進めていきたい。そして、双方向での授業を中心に行うことで、質問がしやすいようにしたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の達成目標は、日常生活の様々なコトやモノに関心をもつようになること、そして、多角的な視点でとらえるようになることである。成績評価は、出席状況と、毎回のミニプレゼンを中心とした平常点、そして、授業の終わりに提出するミニレポートと最終レポートの提出、そして、最終レポートのプレゼンを総合して成績評価と単位認定する。

4 授業改善の方法

次年度の本科目は、2回生のみとなることから、事例を絞り込み、背景、人、立地・空間、歴史、プロセスなど多角的な視点で事例を分析し、対話形式で進めていく。そして、理解度を確かめながら、個々の能力に応じた質問を投げかけることで、参加意識を高めたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 澤田 博 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55410ac・ad・bc・bd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 68名 **回答者数** : 50名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	48	1	-	1	-	-	-	49	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.34					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	1	3.50					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	3.86					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 20.0%	やや 多い 30.0%	適切 48.0%	やや 少ない 2.0%	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.20					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.84					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.80					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 24.0%	やや 高かった 42.0%	適切 であった 30.0%	やや 低かった 2.0%	非常に 低かった -	無回答 2.0%
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	3.10					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.62					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.50					

1 授業の概要、特徴等

音楽経験がほとんどない或いは浅い学生が、楽譜の読み方や楽譜が持つ情報を知り、(ピアノや声を使って)楽譜を音にする方法の基礎を学ぶ科目である。音楽Ⅰ・Ⅱ、保育(表現・音楽)などの学修が容易となるよう設定している。理論の理解に加え、実践が求められる。また授業内で完結する内容ではないので、事前及び事後の十分な自学自習が必要であり、そうした学習態度を養うことも目的としている。受講生を2分し、EP教室(20台の電子ピアノを設置)と通常の音楽教室を併用して授業している。EP教室においては、理論的説明を即座に音で確認することにより、理解を確実なものとするよう授業展開に工夫している。

2 アンケート評価結果に対する見解

「②予習・復習をしましたか」の設問において、「ある程度思う」が4割というのは信じられない。理論に関しては全く予習・復習をしていない学生がほとんどであることは、試験結果から見て明らかである。「③話し方は、明瞭でわかりやすいですか」の回答平均値が低い、順序立てて理解する経験を持たない学生が多いため、知らない単語に出会った時点で諦めてしまい、その後の学修を放棄する傾向が非常に強い。また授業中に、疑問はないかと問うてもほとんど質問が出ない。ソルフェージュについては、実習において「歌う」という作業が実践として必要なことを理解しているので、理論よりは取り組んでいると言える。しかし、自分の歌っている音の高さを認識できない学生が居り、学修を妨げている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

厳密な意味で、本来要求されるべき到達内容での評価は不可能である。音楽に関しては、入学時に何らのチェックもないこと、音楽に限らず「学修」という経験が乏しいままの学生が多いことが理由である。そのため、到達レベルよりは体験を以て評価しているが、真摯に取り組む学生はある程度の達成に至るので、単位が認定される。将来現場で働く状況となった時、担当する音楽について「自分が何をどうすればよいのか」を考える一筋の道或いは灯となることを願っている。

4 授業改善の方法

特に理論について、授業実施の上で障害となっているのは、その必要性を感じない者が多いことである。これは、実習に出ても、自分で楽譜を読んで音楽を準備する状況には到らないからであるが、今理解しなくとも、理論を学習することの重要性を説明しておくことは必要と判断している。具体的な改善の方法として、「単純作業を反復練習する」「声を出して確認しつつ身体(指、手、腕、脚)を動かす」を授業に取り入れることを考えている。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 大城 弓恵 職名 : 非常勤 所属 : 地域こども学科
 科目名称 : 音楽Ⅱ 科目群 : 地域こども学科 専門教育科目
 授業コード : 55305abc 授業形態 : 演習 受講者数 : 10名 回答者数 : 8名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	8	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	3.75	[Bar chart showing distribution]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.13	[Bar chart showing distribution]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	4.13	[Bar chart showing distribution]				
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	とても 多い 12.5% やや 多い -	適切 87.5%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.88	[Bar chart showing distribution]				
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	4.38	[Bar chart showing distribution]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.50	[Bar chart showing distribution]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 12.5% やや 高かった 12.5% 適切 であった 75.0% やや 低かった - 非常に 低かった -	無回答 -				
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.88	[Bar chart showing distribution]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.43	[Bar chart showing distribution]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.88	[Bar chart showing distribution]				

1 授業の概要、特徴等

この授業はピアノの演奏技術の習得を目標としている。課題はピアノ曲の演奏とこどものうたの弾き歌いの2種類があり、弾き歌いに関してはカデンツを用いた伴奏を学ぶ。授業は個別レッスンとグループレッスンとに分け行う。グループレッスンではEP教室を使い歌唱やピアノ演奏のテクニック、弾き歌いの伴奏練習を行い、個人レッスンでは各自の課題曲のチェックをする。音楽Ⅰで学んだことを基に、演奏技術や音楽表現の更なる向上を目標としている。

2 アンケート評価結果に対する見解

個別にレッスンを行うので、授業の雰囲気が乱れることは少ないと感じる。音楽Ⅰから引き続き履修している学生ばかりなので、要領が分かり意欲が出てきた学生とピアノは嫌いと言った色が出てきた学生とに分かれた印象を受けた。予習復習、宿題の項目で回答が割れたのはそれが原因ではないかと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成はピアノ曲と弾き歌いを課題曲数以上合格していることで判断する。期末試験は課題曲(弾き歌い)と、自由曲(ピアノ曲)の2曲で、自由曲はそれぞれのレベルに応じた曲を選ぶ。評価は演奏に対する絶対評価で行う。期末試験の評価に平常点等を加味し最終成績とする。

4 授業改善の方法

まずピアノは保育の現場では必要不可欠であること、練習すれば出来るようになることを理解してもらうことが重要である。その上で練習方法が分かれば自発的に練習に取り組む学生ももっと増えるのではないかと考える。個人レッスンのメリットを生かし学生一人一人としっかり向き合うよう努力したい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 大西 有紀 職名 : 非常勤 所属 : 地域こども学科
 科目名称 : 音楽Ⅱ 科目群 : 地域こども学科 専門教育科目
 授業コード : 55305ac・bb・cc 授業形態 : 演習 受講者数 : 16名 回答者数 : 16名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	16	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.38	[Progress bar]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.81	[Progress bar]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.81	[Progress bar]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 6.3%	やや 多い 12.5%	適切 81.3%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.81	[Progress bar]					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.75	[Progress bar]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.63	[Progress bar]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 18.8%	やや 高かった 18.8%	適切 であった 62.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.81	[Progress bar]					
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.56	[Progress bar]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.75	[Progress bar]					

1 授業の概要、特徴等

個人レッスン EP教室での集団レッスンの2つの形態で行う。ピアノ、弾き歌いを中心に、幼稚園 保育園で即戦力となりうる力を身につける。個人レッスンなので、各自のレベル・能力に応じ、細かい指導をすることができる。

2 アンケート評価結果に対する見解

レベルが高度・課題曲数が多い との回答が少なからずあった。実際の現場では今以上の内容を求められる事も多い。日々の練習法・指導の仕方など、創意工夫しレベルの向上に努めたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

課題曲を全て合格する。出席。定期試験の受験。授業への取り組み等 総合的に加味し60点以上で単位認定とする。

4 授業改善の方法

授業は比較的真面目に取り組んでいるが、普段の練習は絶対的に足りていないと感じている。ピアノ上達には日々の弛まぬ練習が不可欠である。自身で意欲的に取り組むよう指導してゆきたい。ピアノが楽しく魅力的であると感じてもらえるような授業をしてゆかねばならないと思っている。私自身も常に向上心を持ち、勉強を続けてゆきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 玉井 奈摘 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305ad・bc・cd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	13	1	-	-	-	-	-	14	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.29					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.50					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.64					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い - やや多い 14.3%	適切 85.7%	やや少ない -	とても少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.36					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	3	4.21					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.31					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	非常に高かった - やや高かった 42.9%	適切であった 57.1%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.36					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.21					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.14					

1 授業の概要、特徴等

前期音楽Ⅰ無資格者と、試験放棄以外の音楽Ⅰ履修者を対象に、ピアノが弾けるようになる知識、技術および弾き歌いができるようになる知識、技術を身につける。個人レッスン45分とグループレッスン45分で構成される。両方に出席して1回の出席となる。また、どちらかに10分以上遅刻した場合は欠席となるが、授業を受けることはできる。中間試験と期末試験の試験点と、出席点、授業態度などを加味した平常点の総合点をもって単位を認定する。

2 アンケート評価結果に対する見解

評価項目の③与えられた課題にきちんと取り組みましたか に対する回答が全体平均を下回っており、学生の様子を見ているが全体的に時間内の取り組みや、復習が不足していた。④課題の量や内容は、この授業を理解するのに適切でしたか に対する回答が適切だったと答えた学生が多く、課題が多かったわけではないのに手つかずの学生が多かったのだということが分かった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

「バーナムピアノテクニックⅠ」と、「ケーラーこどものためのアルバム」を使用し、ピアノをテクニック面から音楽表現から演奏する技術を身につけることを目標とし、ケーラーについては、課題曲数を2曲、弾き歌いのための教材「こどものうた200」からは課題曲数4曲設定し合格していなければ単位不認定となる。バーナムは指先、手首、肘、腰についての細かい指導を、ケーラーは細かいアーティキュレーションを守りながら、曲想にあった演奏方法、効果的なペダリングなどを指導し、より音楽的な表現を目標とする。弾き歌いについては、両手演奏と歌で実際に子供たちに指導する際に必要な技術を身につける。

4 授業改善の方法

如何にして学生にピアノに興味を持って意欲的に取り組んで貰えるかということ、いつも念頭に置きながら指導するようにしているが、その点でまだまだ力不足であり、新たな知識をもっと提示し、一人ひとりをよく見て、苦手なところや素敵だと感じているところ、上手くできた瞬間などもっと寄り添えるようなレッスンをしていきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 中島 倍代 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305ae・bd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	9	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
			1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.11	[Progress bar]					◇
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.00	[Progress bar]					◇
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.67	[Progress bar]					◇
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い - やや 多い 11.1%	適切 88.9%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -		
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.78	[Progress bar]					◇
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.78	[Progress bar]					◇
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.44	[Progress bar]					◇
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 11.1% やや 高かった 55.6%	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -		
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.56	[Progress bar]					◇
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	3.89	[Progress bar]					◇
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.44	[Progress bar]					◇

1 授業の概要、特徴等

クラス授業45分 + ピアノの個人レッスン45分で構成。クラス授業では、1人1台ずつ電子オルガンで練習。弾き歌いの練習、ピアノ演奏の基礎となる練習を行う。ピアノの個人レッスンでは、子供のうたの弾き歌い、ピアノ曲の練習法等のアドバイスをを行う。

2 アンケート評価結果に対する見解

あまり練習しなかったと答えた学生が、意外と多かった事に驚いた。これからの就職に向けて、ピアノの力が必要というのは共通認識と思っていたが、これからはもっとやり方を工夫する必要がある。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標をどの位にするかは、いつも難しい。保育現場で使える力を蓄えてもらいたい。成績評価は、試験の演奏・平常の努力・欠席数・仕上げた曲数など色々な角度から評価して基準点を満たせば単位を認定する。

4 授業改善の方法

授業で徹底して練習させようと考えている。体に馴染ませる事が出来る様、片手・ゆっくり・反復・部分練習 を組み合わせる。限られた時間の中で、今までは理解させる事に重きを置いてきたが、自発的な練習は少ない学生が多い。そこで、これからは体に覚えさせるやり方をもっと取り入れようと思う。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 宮田 眞理 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305be・ce **授業形態** : 演習 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	1	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価															
					■ 学生の評価平均															
					1	2	3	4	5											
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.67	[Progress bar from 1 to 4.67]																
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.00	[Progress bar from 1 to 4.00]																
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.17	[Progress bar from 1 to 4.17]																
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	<table border="1"> <tr> <td>とても 多い</td> <td>やや 多い</td> <td>適切</td> <td>やや 少ない</td> <td>とても 少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>16.7%</td> <td>33.3%</td> <td>50.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	16.7%	33.3%	50.0%	-	-	-					
	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答														
16.7%	33.3%	50.0%	-	-	-															
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.83	[Progress bar from 1 to 4.83]																
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.83	[Progress bar from 1 to 4.83]																
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.67	[Progress bar from 1 to 4.67]																
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	<table border="1"> <tr> <td>非常に 高かった</td> <td>やや 高かった</td> <td>適切 であった</td> <td>やや 低かった</td> <td>非常に 低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>66.7%</td> <td>33.3%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-	66.7%	33.3%	-	-	-					
	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答														
-	66.7%	33.3%	-	-	-															
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.67	[Progress bar from 1 to 4.67]																	
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.50	[Progress bar from 1 to 4.50]																
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.67	[Progress bar from 1 to 4.67]																

1 授業の概要、特徴等

ピアノ演奏の初歩、バーナム・ケーラーの教則本を用いての授業。童謡弾き歌いの導入。音符の読み方・楽譜の理解・楽語の理解。指導は個人授業。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生が興味をもって課題に取り組めるよう、曲の成り立ちや言葉の解説など色々な言葉かけをしていますが、なかなか予習や復習に結びつかないのが現状です。学生がこの曲が弾きたいと意欲を持てるよう更に努力をしたいです。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業で決められた曲数を合格し、試験でミス無く演奏する。童謡は弾き歌いで大きな声で歌える事。複数の講師で採点し、平均点を出す。平常点も加味される。

4 授業改善の方法

時間のかかるピアノの練習。やる気をいかに継続させられるか。ピアノに興味を持てるように色々な角度から、声掛けをしていきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 山下 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305af・bf・cf **授業形態** : 演習 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	11	1	-	-	-	-	-	12	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.75						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.25						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.33						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	33.3%	66.7%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.92						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.75						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.58						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			16.7%	41.7%	41.7%	-	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.58						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.58						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.67						

1 授業の概要、特徴等

保育現場で必要な音楽の基礎技術を習得する為に、ピアノ曲の演奏とこどものうたの弾き歌いを、「音楽Ⅰ」に引き続き学ぶ。授業はグループ学習と個人レッスンで構成され、基本的な音楽知識、柔軟性のあるピアノテクニック、明瞭な発音と発声など多様な内容を学習し、演奏できる力をつける。これにより、保育者になるために必要な音楽的技術を習得する。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業態度や総合評価の結果から、概ね適切な授業内容であったと思われる。課題の量やレベルについては、もう少し増やすことや、高いものを入れていくことも可能なようにも考えられるが、各学生の音楽的レベルの個人差はかなり大きいので、この授業としては慎重に判断するべきであろう。より高いレベルの内容は、「音楽Ⅲ・Ⅳ」で引き続き習得して欲しい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

ピアノ曲2曲とひきうたい曲4曲の計6曲の合格が、目標達成基準となる。なお可能な学生は、より多くの曲数を学習していく。成績は、中間試験と期末試験での演奏に対する評価点のほかに、平常点・達成点・欠席減点などを合わせて採点される。試験の演奏が良くなかった場合は、再試験が実施される。

4 授業改善の方法

音楽の基礎技術を習得し、向上させていくためには、各学生の日々の弛まぬ練習の積み重ねが必要であるので、時間をかけた予習・復習によって努力していきけるよう、効果的に声掛けをしていきたい。個人レッスンでは、時間を有効に使って、次への課題点を明確に示していく。良い練習習慣を会得して、目標を達成して欲しい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 奥田 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅳ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55325ab・bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	6	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.17						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.33						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.83						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	50.0%	50.0%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.50						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	5	4.50						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.50						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	83.3%	16.7%	-	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.67						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.67						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.50						

1 授業の概要、特徴等

一回生でピアノの演奏基礎技術を学んだ学生対象の2回生前期に続く授業である。基礎技術の確立と同時に表現する力を身に付けさせて現場で幼児にピアノでいろいろな曲の雰囲気をしっかりと伝えられるようにさせる。今自分の持てる力を最大限使っているいろいろなアプローチが出来るようにさせピアノに対しての劣等感を無くし自信をもって現場で音楽の指導が出来る指導者として自覚させる。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講した学生についてはみな近年になく熱心でただ音を並べるのではなく納得いく演奏がしたいと粘り強い努力を重ねる学生が多かった。脱力して滑らかに楽に演奏する弾き間違いが減りテンポも速く2年間の受講の成果のしっかりと表れた学生が多かった。受講して良かった。苦手で無くなった。こんな風に素敵に弾けるんやと感想が聞かれた。又お互いに良くなったねと感想を言い合う場面もみられた。前年度の音楽1の取り組みの変更が手ごたえのある成果として感じられた。特に幼稚園保育所就職が決まった学生は学校にいる間に少しでも上手になりたいという気持ちが伝わる雰囲気であった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標は達成できた学生がほとんどであった。表情記号まできちんと反映させ演奏しなくてはいけないという意識が持てて良かった。初見演奏が実際の曲に変わり学生の取り組みに変化が見られた。ケーラーの後半はブルグ前半よりも難しいのでレベルにより判定が変わるのでちょっと判定で損をした学生がいた。(ブルグミュラーが嫌いらしく助言したが本人の意思に任せた)

4 授業改善の方法

曲数より授業受ける態度や演奏の達成度内容重視という次年度に向けての会議で話のでたので良かった。自由単位であるため就職にピアノが必要で無くなる又は幼稚園免許を諦めた学生が受講を取りやめたのは残念であった。保育園はピアノの試験が無いものの現場では幼稚園と同じくピアノは大切なスキルであることを理解させ受講取りやめの学生の意識を変える必要があると思う。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 和田 宏一 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅳ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55325ac・bc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	7	-	-	-	-	-	6	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.14					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	4.14					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.00					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや多い	とても多い -	やや多い 14.3%	適切 85.7%	やや少ない -	とても少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.43					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.57					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.71					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった	非常に高かった 14.3%	やや高かった 28.6%	適切であった 57.1%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.29					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.14					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.57					

1 授業の概要、特徴等

一年次の音楽Ⅰ・Ⅱを修了した学生を対象に、より高度なピアノ課題への取り組みを目指した教科で、二年次前期が音楽Ⅲ、後期がこの音楽Ⅳになる。内容的にはピアノの個人レッスンで行われ、ピアノ演奏の課題を中心に、就職試験対策で初見視奏課題にも取り組む。また、実習や就職試験におけるピアノ課題曲のレッスンもこの授業にて対応している。

2 アンケート評価結果に対する見解

概ねこちらの予想に近い結果であると捉えている。ただ、遅刻は学生の回答よりも多かった印象である。また、課題の取り組みであるが、授業時間内に頑張っているなど思わせる学生は確かに多いものの、本来は自宅、または学校にて事前に練習をしてから臨むべき授業なのに、そのことが一部の熱心な学生にしかできていないことは残念であると思う。その辺りの指導は行っているつもりだが、より良い方法を今後も担当教員同士で話し合っていきたいと考えている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業内にて指定レベル以上のピアノ課題を3曲以上合格し、かつ初見課題に1曲以上取り組み、さらに期末の実技試験にて合格した者に単位が与えられる。期末試験では演奏の出来に対する評価を行い、平常点としては普段の取り組みの熱心さ、忘れ物の有無、爪を適切な短さに切っているか、出席状況などが評価の対象となっている。

4 授業改善の方法

先ほどの(2)でも述べたが、各学生が授業時間以外にどれだけ練習に取り組めるように指導していくかが今後への課題かと思う。学生の日常生活の内容にも関わる問題なので慎重に扱わないといけない側面もあるが、その生活の中でいかに練習時間を確保するか、またどのように練習するのが良いのかを学生個人と、また担当教員同士で話し合い、根気良く指導していく必要があると考えている。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 中田 奈月 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 家庭支援論 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52201a **授業形態** : 講義 **受講者数** : 36名 **回答者数** : 27名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	27	-	-	-	-	-	27	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.30	[Bar chart showing distribution]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.22	[Bar chart showing distribution]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.26	[Bar chart showing distribution]				
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い 33.3% やや 多い 33.3% 適切 であった 33.3% やや 少ない - とても 少ない - 無回答 -	[Bar chart showing distribution]				
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	-	3.56	[Bar chart showing distribution]				
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.74	[Bar chart showing distribution]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	-	3.85	[Bar chart showing distribution]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 37.0% やや 高かった 29.6% 適切 であった 25.9% やや 低かった 7.4% 非常に 低かった - 無回答 -	[Bar chart showing distribution]				
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.44	[Bar chart showing distribution]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.74	[Bar chart showing distribution]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.78	[Bar chart showing distribution]				

1 授業の概要、特徴等

・ディスカッションとワークショップにより授業を展開する。 ・学生は互いに学び、互いに評価することを求められる。 ・
 教員は授業中、ほとんど前に立たない(10分程度)。コーディネーター、ファシリテーターとして関わる。 ・授業外の授業準備
 に時間を費やす。毎週二時間以上の予習復習を求めている。

2 アンケート評価結果に対する見解

・ワークショップ、ディスカッション、自分と自分のグループ、自分のクラスのために授業準備をすること、互いに高め合うた
 めに評価しあうこと、というスタイルに、なれるのに時間がかかることから否定的意見が毎年多い。なかでも今年は互いに
 グループで分かり合おうとする意欲が低く、チームで「うまくやっていく」ことが難しい学生に不満が多かった。それが例年に比
 べて遅刻が多かったこととつながっている。また、このことが「グループ決定が不公平である」(くじ引きで決めているため「不
 公平」とも言えない)「ワークショップではなく講義形式にしてほしい」という意見につながっていると考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

到達目標 1.家庭の意義とその機能について理解する。 2.子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。 3.子育て家
 庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関連機関との連携について理解する 成績評価基準と単位認定 学生が互いに学び高め
 合うことによって到達目標に達することが単位認定の条件になる。 ・ワークショップスタイルでの学び(クラスワーク30% グル
 プワーク40%) ・学生個人によるレポート(30%)

4 授業改善の方法

学生にとっては予習復習にかなりの時間がとられ、負担が大きいと思われるが、学習効果が大きいため、引き続きこのスタイル
 を継続する。次年度はチーム作りに少し時間をさく。アイズブレイクの時間を作り、ワークショップに早く慣れるよう促す。ア
 イズブレイクの分だけ時間外の授業準備が増えることが予想されるが、互いに高め合うスタイルに慣れていない学生には必要で
 あると考える。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 李 仙恵 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 障害者福祉 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 51020 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 8名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	7	-	-	2	-	-	5	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.86						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.71						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.43						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い	やや 多い	適切 100.0%	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.57						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.57						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.57						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	14.3% 14.3% 71.4% - - -
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.57						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.57						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.43						

1 授業の概要、特徴等

この授業では、障害者福祉の理念、障害者差別問題、障害者虐待問題、障害者雇用等に関する課題を設定して授業を進めた。学生に今日の障害者を取り巻く状況を理解してもらうため、障害者施設反対運動や障害者虐待等の社会問題を取り上げ、それぞれの立場で議論をし、意見交換を行った。講義のみではなく、学生自身の興味や意見を尊重しながら、障害者の福祉問題について理解を深めた。

2 アンケート評価結果に対する見解

この授業は7人という少人数だったので、時間をかけて学生の理解度に配慮して授業を進めることができた。授業のレベルも学生それぞれに合わせて調節し、とりわけ、学生が問題意識や関心を持つテーマを設定し、お互いに議論ができたことが学生によるアンケート評価に反映されたと思われる。私語や居眠り、携帯電話の使用に関しては、徹底的に注意をさせ、学生が授業に集中できるようにした。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

この授業では、今日の障害者の福祉問題について学生自身が興味を持って授業に取り組むことを重視した。成績は、授業態度(出席とコメントカード提出)とレポート、テストで評価し、授業態度とレポートを重視した成績評価基準を設けた。授業参加、コメントカード提出、レポート提出、テストの結果を総合的に踏まえて、成績を評価し、単位を認定した。

4 授業改善の方法

少人数の利点を生かしてグループに分けて指定課題に取り組んでもらうようにし、学生自身が情報を検索し、自ら問題意識を持つように促したほうがよかったと思う。また、講義中心になることが多く、学生が受動的な立場で講義を聞き流すことがあるので、事前学習を取り入れ、授業にもっと積極的に参加してもらうように改善をしていきたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 早川 淳 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健B **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52110ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 74名 **回答者数** : 56名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	55	1	-	-	-	-	-	56	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.64					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.91					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.49					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 10.7%	やや 多い 21.4%	適切 64.3%	やや 少ない 1.8%	とても 少ない 1.8%	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.38					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.39					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.56					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 8.9%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 58.9%	やや 低かった 3.6%	非常に 低かった -	無回答 -
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	3.30					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.61					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.54					

1 授業の概要、特徴等

乳幼児期によくある疾患を学び、保育における環境及び衛生管理・安全管理について理解していくことを中心課題とした。子どもの疾患とその予防法とその対策について学び、理解していくことは、幼児教育者にとっても、また、子どもを育てる上でも必須条件である。さらに、精神保健面とその課題について、保育者としての役割と機能、安全教育についても言及していき、子どもに対する保健衛生面への知識の必要性を授業のなかで学習できるように準備した。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生の意見を真摯に受けとめながら、自己改善していきたいと思う。・字が汚いことについては一番気をつけながら授業を進めた。どうしても大事などころなどは板書した、それも学生に理解できるように板書して、努力したつもりである。今後は板書の方法を考案してわかりやすい方法を検討していく。・さらに、学生に役立つ内容を再考して、講義していきたいです。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

後期に自分の授業目標達成ができていくかどうかと、尋ねられると不十分な点もあると思います。学生の成績評価に対して、平均点が前期よりよかったので授業の目標達成はできているかと自負しています。子どもの保健衛生面についてグループでまとめと発表することを課題とした。この目的は学生が自ら勉学することや知識を得ることの楽しさを感じることが出来るように企画した。そこで、学生達の持てる力を発揮できる機会にもなった。

4 授業改善の方法

現場の教諭や保育士たちが一番、養成校に期待するのは子どもの年齢別発達の様子である。そのため、授業のなかで子どもの発達や成長などは小児保健の分野でもある。もちろん、小児保健は身体面であるがやはり心理面の発達もかね添えていかなければいけない。学生の意見も大事にしなが現場の声も大事にして学生に勉強の意欲がわくように授業内容にしていくつもりである。学生が講義に興味を持って、理解が深まるようにしていきながら良い講義ができるように努力していく決意です。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 片岡 三和 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(言葉) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53130ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 74名 **回答者数** : 60名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	58	2	-	-	-	-	-	60	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.98						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.43						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.97						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 3.3%	やや 多い 6.7%	適切 88.3%	やや 少ない 1.7%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.43						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.20						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.50						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 3.3%	やや 高かった 16.7%	適切 であった 80.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.22						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.32						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.33						

1 授業の概要、特徴等

幼児教育には、幼児期に経験しなければならないこと等、未分化の時代にある独特のものがあります。教育要領でいう「心情・意欲・態度」の伸びを大切にしているのです。それらのものが理解されなければ、後の専門知識や技能が成り立たないのです。そして、そのことを様々な窓口を通して学生たちに伝えることが必要だと思っています。その土台の上に「言葉」の領域の専門性を生かしていきたいと考えております。

2 アンケート評価結果に対する見解

教科書については読むだけで覚えるものと、内容を理解して具体的に収めるものがあると考え、そのように説明して進めているつもりでしたが、以後、学生たちに納得するように話してみます。おしゃべりをしている学生についてですが、私にはほとんど気にならない程度なのです。今後、そんな程度のおしゃべりが気になる学生のほうを注意してみたいと思います。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

伝えなければならないこと、伝わらなければならないことは温度差や理解度の少しの差はあるものの、方向としてはほとんど全員つかんでくれたと自負しております。

4 授業改善の方法

授業の中身はそのことを信じるから学生に伝えられる。子どもの見方、捉え方、そして子どもの成長のために必要なことの伝え方等は考え方が様々であり、今、講義しているものが全てではないことをきちんと伝え、これから出会うであろう様々な考え方も含め、自分が自立する時の考え方の参考にしていただきたいと切に願って授業を謙虚に展開していきたいと思っています。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 石田 裕子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育実習指導Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 57212 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 35名 **回答者数** : 35名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	33	1	-	-	-	-	32	-	1	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価				
				■ 学生の評価平均				
				1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.51					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.20					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.51					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い -	やや 多い 31.4%	適切 68.6%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.63					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.80					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.71					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 5.7%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 65.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.63					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.71					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.57					

1 授業の概要、特徴等

実習のための事前事後指導の内容の授業であった。1回生前期から実習指導の科目においては、授業態度、提出物、マナー等については厳しく指導を行ってきた。実習施設に関する知識を習得し、自己の行動を振り返り、自己の課題を明確にし、課題克服に向けてどのようにしたらよいかについて考えることを求めた。この授業では、グループワークを多く取り入れ、模擬保育や、保育士の資質について考え、保育士に必要な連携について経験する機会も提供した。

2 アンケート評価結果に対する見解

すべての項目が全体平均を上回っており、満足度は高いと思われる。多くの学生は真剣に取り組んでいた。しかし、この単位を落とすと実習に行くことができない、という緊張感を持って、授業に臨んだ結果だと思う。他の授業との兼ね合いもあり、課題の量については悩みどころであるが、適切が、68.6% やや多いが31.4%となっており、おおむね許容の範囲内であると考えている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は以下のとおりである。 1. 保育所実習の目的と意義を理解する 2. 保育実習に意欲的に取り組み、保育実習の目的・内容を理解する 3. 自己を振り返り、自己の課題を明確にする 4. 保育実習の心構え、注意点を理解し、実習に向けての事務連絡及び諸手続きを行う 5. 保育所保育士に求められる資質について考える 提出物、受講態度、連携する姿勢等を単位認定の基準とした。おおむね達成できたと考えている。

4 授業改善の方法

前半は緊張感を持たせることで学生を指導をしていたが、グループワークを取り入れる場合は、それぞれ学生個人が意欲的に取り組めたように思われるので、前半からグループワークを取り入れることを検討する。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 鈴木 千晴 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育心理学演習 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52011ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 71名 **回答者数** : 59名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	57	-	-	2	-	-	-	57	-	-	2

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.86					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.14					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.66					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 多い	とても 多い 6.8%	やや 多い 22.0%	適切 67.8%	やや 少ない 1.7%	とても 少ない -	無回答 1.7%
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	3.72					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	-	3.53					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.61					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 16.9%	やや 高かった 16.9%	適切 であった 66.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.63					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.66					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.93					

1 授業の概要、特徴等

この授業は、保育心理学を発展させた内容で保育心理学に関する知識の紹介と毎回事例を読みその知識を実際の事例に沿ってどのように生かすことができるかを考えるという枠組みで行った。正解が一つに決まるという形でなく、あくまで実践的に自分で考えるということを大切にしたい。学生からのフィードバックを大切にしたいという狙いで当初は発言を重視していたが発言が苦手な学生も多く、小レポートの形をとった。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業の雰囲気に関するフィードバックが多く、授業の進め方についても評価がやや低い。自分で考える事、周りとは話し合っただけを深めることを重視したため、座席は自由としたこともそのようなことの要因であると思われる。また、自主的な参加でないという意味がないということを授業では強調し、その都度注意してもこのクラスのためにならないのではないかと話をしたこともあって、こちらの意図が全て伝わらなかったと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

自主的な取り組みや姿勢を重視したため、小レポートや中間、期末テストでは熱心に取り組み学生とそうでない学生の差が大きかった。そのため、それを成績にそのまま反映させた形の評価となった。また、毎回の小レポートとテスト及び補足の課題で評価し、自分があとどれだけ何をすれば単位に足るのかとすることを明確に何度かフィードバックしたため、単位を落とす学生は少なかった。

4 授業改善の方法

自ら考えるという課題を毎回設けて授業を行ったが、そのようなスタイル自体に違和感を申し出る学生もいた。自ら考える課題を出したことで考える力をつけた学生がいる一方で、与えられた作業をこなしたり覚えたりと言った学習の方が参加しやすい学生には参加が難しい授業になってしまった。反省点として、授業の雰囲気の改善と様々なレベルに応じた課題、授業中のタスクなどを考えていかなければいけないと思われる。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 石田 伸子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育相談支援 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53311ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 68名 **回答者数** : 58名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	55	2	-	-	-	-	57	-	1	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.76	[Bar chart showing distribution]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.28	[Bar chart showing distribution]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.76	[Bar chart showing distribution]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	と ても 多 い	やや 多 い	適 切	やや 少 な い	と ても 少 な い	無 回 答	
			-	36.2%	63.8%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.05	[Bar chart showing distribution]					
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.97	[Bar chart showing distribution]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.09	[Bar chart showing distribution]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適 切 で あ っ た	非 常 に 高 か っ た	やや 高 か っ た	適 切 で あ っ た	やや 低 か っ た	非 常 に 低 か っ た	無 回 答	
			6.9%	48.3%	44.8%	-	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.95	[Bar chart showing distribution]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.03	[Bar chart showing distribution]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.93	[Bar chart showing distribution]					

1 授業の概要、特徴等

現代社会が抱えている問題は多種多様で、それぞれ異なった環境の中で子育てに不安を抱える保護者が増加している。保護者の声に耳を傾け、個々に合った適切な対応・援助ができる専門知識を身につけた信頼のおける保育者の存在が必要となる。具体的な事例や、ビデオを通して、相談者としての基本的な知識・態度を学び、自主的な議論の中から自分で考える力をつけていく。

2 アンケート評価結果に対する見解

具体例を多く取り上げたり、主体的な話し合いなどで興味を持てるように努力をしたが、それぞれの理解力の差が大きく十分理解できていない学生がいることに気づいた。また発表や話し合いの苦手な学生への配慮も必要であることを感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

シラバスに沿って講義を進め、基本となることは伝えられたと思う。保育相談支援に際し、保育者としてなすべき事柄が理解できているかを評価基準とし、日々の学習態度、グループでの討議の内容、レポート及びテストの結果で単位を認定した。

4 授業改善の方法

グループでの話し合いはそれなりの成果があったが、苦手意識を持っている学生もいた。個人差が大きく、理解できている学生にはそれなりの課題に取り組めるよう配慮しながら、理解の遅い学生にはもう少しペースをゆっくりと確認しながら授業を進める必要がある。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 福井 靖子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・幼児造形 I) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53150abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 72名 **回答者数** : 59名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	59	-	-	-	-	-	-	58	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.95						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.20						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.85						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 5.1%	やや 多い 20.3%	適切 71.2%	やや 少ない 3.4%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	3.54						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	3.64						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	3.66						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 10.2%	やや 高かった 27.1%	適切 であった 61.0%	やや 低かった 1.7%	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	3.47						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	3.61						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	3.75						

1 授業の概要、特徴等

講義と実践・実際の子どもの作品に触れることによって、幼児の成長にとって重要な役割を果たす幼児造形活動について理解を深める。幼児の生活経験や思いつきなどを大切にすることで、創造的な態度を醸成するためのより具体的な指導法を学ぶ。幼児造形の基本としての、描画・制作・土粘土を前半で学ぶ。応用として、保育実習や採用試験での実践力を身につけるための、小麦粉粘土・モダンテクニック・ポップアップを後半で学ぶ。

2 アンケート評価結果に対する見解

前回の考察でも述べたが、学生にアンケートを行った時期が後期の途中で、全ての授業内容が終わっていない。前半の基礎的な内容を踏まえて、後半の応用的な内容(実習や採用試験での実践力になるもの)を学ぶように授業を組み立てている。学生へのアプローチの仕方も異なるので、全てを受けていない学生のアンケート結果には少し疑問が残る。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

幼児期の造形表現では、技法や技術にとらわれずに自由な表現活動ができることを念頭に置かなければならない。保育者は、幼児の生活経験や思いつきなどを大切にすることで、創造的な態度を醸成することが重要である。そのために不可欠な、幼児造形に対する理解と、造形技術の習得を目指す。 評価基準：授業態度(理解度、意欲的かどうか) 50% 提出作品(作品数、完成度、独創性) 50%

4 授業改善の方法

前半の授業では、学生の自由度を最大限尊重している。その中で、いかに集中し創意工夫する態度を身につけさせるかが課題である。そのための参考資料、参考作品、アプローチの仕方、言葉がけを工夫したい。後半では、楽しみながら造形技術の習得がしっかりできるように、個人指導を徹底したい。全体を通して、よりいっそう褒めて伸ばすことにこだわりたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 安永 龍子 **職名** : 准教授 **所属** : 専攻科
科目名称 : 介護概論Ⅱ **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7210 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	3	-	-	6	-	-	-	-	9	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.78						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.89						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	22.2%	77.8%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.22						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.33						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.33						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	44.4%	55.6%	-	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.11						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.22						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.22						

1 授業の概要、特徴等

介護福祉士が働く介護サービス提供の場と特性を理解するとともに、介護者と利用者の安全を守るリスクマネジメントについても学習する。また、介護者の健康管理についても学習していく。

2 アンケート評価結果に対する見解

予習復習についての平均値が全体平均値よりも少しだけ高かった。穴埋め式資料を用意し提出を求めたことや、教科書のある章の自己学習を課題として出しその確認テストを行うことで学生は予習復習を行ったと評価したのではないかと考える。自由記述で板書について「ごちゃごちゃしてどこに書いているのかわからなくなったりした」とあった。板書については、分かりやすくきれいに心がけてはいるが、その都度学生が理解できているかを確認しながら書かなければならないと感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

評価基準としては、知識の修得に趣を置き筆記試験の比重を80%とした。介護の信頼や安全性を考えると知識の修得は重要である。この基準は今後も続けていく。再試験者は生活福祉コース7名(16名中)、専攻科1名(9名中)であり、単位認定ができなかったものが1名いた。学生の自己評価として予習復習をしていたにも関わらず、成績としては振るわない学生が多かった。予習復習が知識の修得(授業の目標達成)に繋がっていない感がある。

4 授業改善の方法

- ・板書については、学生の理解を確認しながら進めていく。
- ・予習復習、課題が知識の修得に繋がるように工夫をする。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 北口 照美 職名 : 教授 所属 : 専攻科
 科目名称 : 居住環境整備の技法 科目群 : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
 授業コード : 7265 授業形態 : 演習 受講者数 : 9名 回答者数 : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	3	-	-	6	-	-	-	-	9	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.78	[Bar chart showing 3.78]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.56	[Bar chart showing 3.56]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.78	[Bar chart showing 3.78]				
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや多い	とても多い 11.1% やや多い 11.1% 適切 77.8% やや少ない - とても少ない - 無回答 -	[Bar chart showing 77.8% for '適切']				
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.00	[Bar chart showing 4.00]				
授業の進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.00	[Bar chart showing 4.00]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.00	[Bar chart showing 4.00]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	非常に高かった 11.1% やや高かった 44.4% 適切であった 44.4% やや低かった - 非常に低かった - 無回答 -	[Bar chart showing 44.4% for '適切であった']				
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.11	[Bar chart showing 4.11]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.33	[Bar chart showing 4.33]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.33	[Bar chart showing 4.33]				

1 授業の概要、特徴等

快適な住まいを快適な環境として整備するための要件を理解する講義である。介護福祉士養成の科目として、高齢者等への生活を支援する福祉住環境という視点での講義が中心となっているが、人間生活に必要な環境条件を数値で科学的に理解することを基本としている。また、生活は、住まいだけでなく近隣環境のあり方も重要となってくる。本講義では地域環境も含めて広く生活空間を理解することを特徴としている。

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケートは、妥当な回答がされていたと感じられる。ほとんどの学生は受講態度もよく提出物も期限内に提出し、まじめに取り組んでいた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は、快適な居住のために必要な寸法や温熱・光・音環境などの基本的な数値を理解すること、居住環境整備の方法を提案すると共に、必要性の根拠を説明できることである。成績の評価基準は、生活に必要な環境条件の理解である。単元ごとのまとめのテストやレポートを課し、最終の試験を実施する。小テストを繰り返すことの積み重ねで、基本的な事柄を理解することが出来ていると判断され、単位を認定している。

4 授業改善の方法

学生から「声が小さい」「聞こえない」という意見がある。もう少しゆっくり話すことを心がけたい。板書や要点を記載したプリント配布を中心に進め、学生が自分の手で書くことで学習が深まるようにしている。講義内容の単元毎にまとめの小テストをしているが、この小テストで学生の理解力を把握して個別に指導し、より深い理解につなげたい。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 山田 和歌子 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 障害の理解 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7425 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	3	-	-	6	-	-	-	-	9	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.89					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.22					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.22					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	と ても 多 い - やや 多 い 33.3%	適 切 66.7%	や や 少 な い -	と て も 少 な い -	無 回 答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	2	3.78					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.78					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	3.89					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高 か っ た	非 常 に 高 か っ た - やや 高 か っ た 44.4%	適 切 で あ っ た 55.6%	や や 低 か っ た -	非 常 に 低 か っ た -	無 回 答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.78					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.22					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.22					

1 授業の概要、特徴等

今回は前回の講義の反省を踏まえ、視覚的にわかりやすく授業を進めることを試みた。しかし学生が「授業が早い」「わからへん」との言葉があり、学生を理解し学生のレベルに合わせる必要を感じた。誰もがわかりやすい言葉を選び学生が興味を持つことを意識し、遊びや楽しみの体験を基に、そこから障害の理解の内容に連結させる講義をすることにより、学生から質問や～してほしいなど、学生からの意欲的な面も見られた。

2 アンケート評価結果に対する見解

アンケートについては15回授業の中の4回目の授業でのアンケート結果なので、私自身の授業を改善する必要があった時期でもある。11月の実習のため内部障害というところからスタートした。内部障害は体のしくみが理解できた上で疾患や身体の機能、心や社会の問題等を理解する必要があり、今回は学生には理解するのに時間がかかる項目だったかもしれない。できれば何回も試行錯誤を試み、授業改善後の結果を知りたかった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成においては「理解できる」でも詳細が異なる。例えば、言葉に表すことはできないが意味や内容がわかると自分の言葉で説明ができるの違いである。今回は個々にそれらによる差が出たように思う。試験でも選択問題ができるが文章を書くとなかなか不十分であったり、文章は書いているが内容が不十分であったりしていた。単位認定はしたが、予習復習をすることで自らの目標のハードルを上げ向上して欲しい。

4 授業改善の方法

授業で、ある言葉を別のわかりやすい言葉に置き換える。しかし複数の人に伝わっても残りの人には伝わらない。その言葉をまた別の言葉に置き換える。私の言語への能力不足もあり、個々の学生の能力に応じた授業は私では不十分だと思った。そこで補習する時間を取って理解してもらおうと試みたが誰も補習してほしいとは言って来なかった。私自身人に理解してもらえるように伝えるということは努力してみたが困難な領域かもしれない。

教員による授業アンケート (2013年度 後期)

教員名 : 吉田 裕司 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 発達と老化の理解 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7410 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	3	-	-	6	-	-	-	-	9	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.67						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.11						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	2.89						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 22.2%	やや 多い 33.3%	適切 44.4%	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	3.33						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.22						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.33						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 66.7%	適切 であった 22.2%	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.11						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	3.33						

1 授業の概要、特徴等

概要 介護に必要な加齢医学について学ぶ。特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について理解を深める。
特徴 国家試験に即した内容を中心とする。教科書、スライド、プリント、練習問題を用い講義を進める。声が行きわたる様にマイクを使い、欠席者にもプリントを配布し、後部座席にも見えるようスライドを用い、学生に公平に授業内容を伝えることに努める。

2 アンケート評価結果に対する見解

全体的に平均を下回る結果となった。本年度からプリントと練習問題を追加導入したが、アンケート結果・授業態度・筆記試験結果から、ねらい通りの効果が得られていない事が分かった。来期は各回ごとに課題を与え、講義の理解をもっと深めていくことを目指したい。「プリントが分かりにくい」、との声があった。プリントはスライドを白黒で印刷したもので、カラー部分・写真は分かりにくい。授業の説明、スライド、教科書で補足し、メモをとることを勧めたい。「練習問題の空欄」は、来期に検討することとする。「暗記ものが多い」と思うためか、肝心の介護との関連を理解できていない生徒が目立った。来期は、課題を掲げることで対応したい。用語は使うことで自分の物になると思う。「眠気が生じる」を防ぐため、課題を意識すること、授業中のメモを勧めていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成 介護に必要な加齢医学について学び、特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について理解を深める事を目的とする。
成績評価基準と単位認定 受講姿勢10%筆記試験90%で採点し、60%以上の得点で単位を認定する。

4 授業改善の方法

来期は各回ごとに課題提出を追加し、講義の理解を深めていく。練習問題の空欄設定を検討する。授業中のメモを推奨する。

